第 5 1 9 回
三戸町議会定例会会議録

令和 6 年 9 月 3 日 開会

令和 6 年 9 月 1 0 日 閉会

三戸町議会

目 次

会 期 日 程 表	1
上程議案及び議決結果	2
第1日 令和6年9月3日（火）	
○議事日程	4
○本日の会議に付した事件	4
○出席議員	4
○欠席議員	4
○地方自治法第121条の規定により説明のために出席した者の職氏名	4
○職務のために出席した事務局職員等	5
日程第1 会議録署名議員の指名	6
日程第2 会期の決定	6
日程第3 諸般の報告	7
＜町長の報告＞	
報告第5号 健全化判断比率及び資金不足比率について	7
＜議長の報告＞	7
日程第4 町長提案理由の説明	8
第3日 令和6年9月5日（木）	
○議事日程	14
○本日の会議に付した事件	14
○出席議員	14
○欠席議員	14
○地方自治法第121条の規定により説明のために出席した者の職氏名	14
○職務のために出席した事務局職員	14
日程第1 一般質問	
久慈 聡議員	16
1. 三戸城跡史跡指定と観光振興の連携について	
柳零 圭太議員	36
1. 合葬墓の整備について	
五十風 淳議員	41
1. 次世代への教育・人材育成の取り組みについて	
第4日 令和6年9月6日（金）	
○議事日程、追加議事日程	53
○本日の会議に付した事件	53
○出席議員	53
○欠席議員	53
○地方自治法第121条の規定により説明のために出席した者の職氏名	53
○職務のために出席した事務局職員	53
日程第1 議案第42号 三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案	55
日程第2 議案第43号 青森県後期高齢者医療高広域連合規約の変更について	56
日程第3 議案第44号 財産取得について	57

日程第4	議案第45号	三戸町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	58
日程第5	議案第46号	三戸町固定資産評価委員会委員の選任につき同意を求めることについて	58
日程第6	議案第47号	三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	59
日程第7	議案第48号	令和6年度三戸町一般会計補正予算(第3号)	60
日程第8	議案第49号	令和6年度三戸町簡易水道事業会計補正予算(第1号)	64
日程第9	議案第50号	令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算(第1号)	65

第7日 令和6年9月9日(月)

○決算特別委員会

※会議録は別冊参照

第8日 令和6年9月10日(火)

○決算特別委員会

※会議録は別冊参照

日程第1	議案第51号から議案第58号まで決算特別委員長報告・採決	71
日程第2	常任委員会の所管事務調査、請願及び陳情の審査結果の報告について	71
日程第3	常任委員会の閉会中における所管事務調査について	72
日程第4	諸般の報告	73
	・議長の報告	
追加日程1	副議長辞職の件	74
追加日程2	副議長の選挙	74
追加日程3	千葉有子議員の議会運営委員の辞任	75
追加日程4	議会運営委員の選任	76
追加日程5	町長提案理由の説明	77
追加日程6	議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案	78
追加日程7	議案第60号 令和6年度三戸町一般会計補正予算(第4号)	79
閉会		88
署名		89

会 期 日 程 表

会 期 令和6年9月3日～令和6年9月10日（8日間）

日程	月 日	会議の種類	開議時刻	内 容
第1日	9月3日(火)	本 会 議	午前10時	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 諸般の報告 議案一括上程 提案理由の説明
第2日	9月4日(水)	休 会		議案熟考のため
第3日	9月5日(木)	本 会 議	午前10時	一般質問
第4日	9月6日(金)	本 会 議	午前10時	議案審議・採決 決算特別委員会設置・付託
第5日	9月7日(土)	休 会		休日のため
第6日	9月8日(日)	休 会		休日のため
第7日	9月9日(月)	決算特別委員会	午前10時	決算審査
第8日	9月10日(火)	決算特別委員会 本 会 議	午前10時	決算審査 決算特別委員長報告・採決 各常任委員長報告 閉会中常任委員会所管事務調査、陳情請願審査結果報告 諸般の報告 閉会

上程議案及び議決結果

議案番号	件名	議決年月日	議決結果
報告第7号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について		町長報告 R5.9.3
議案第42号	三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案	R6.9.6	原案可決
議案第43号	青森県後期高齢者医療高広域連合規約の変更について	R6.9.6	原案可決
議案第44号	財産取得について	R6.9.6	原案可決
議案第45号	三戸町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	R6.9.6	原案同意
議案第46号	三戸町固定資産評価委員会委員の選任につき同意を求めることについて	R6.9.6	原案同意
議案第47号	三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	R6.9.6	原案可決
議案第48号	令和6年度三戸町一般会計補正予算(第3号)	R6.9.6	原案認定
議案第49号	令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算(第1号)	R6.9.6	原案認定
議案第50号	令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算(第1号)	R6.9.6	原案認定
議案第51号	令和5年度三戸町一般会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定
議案第52号	令和5年度三戸町立学校給食共同調理場特別会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定
議案第53号	令和5年度三戸町営簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定

議案番号	件名	議決年月日	議決結果
議案第54号	令和5年度三戸町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定
議案第55号	令和5年度三戸町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定
議案第56号	令和5年度三戸町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定
議案第57号	令和5年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定
議案第58号	令和5年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計歳入歳出決算認定について	R6.9.6	原案認定

第1日目 令和6年9月3日(火)

○議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
 - 第2 会期の決定
 - 第3 諸般の報告
 - 1. 町長の報告 報告第7号 健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
 - 2. 議長の報告
 - 第4 町長提案理由の説明
-

○本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○応招議員(14人)

○出席議員(14人)

- 1番 五十嵐 淳 君
 - 2番 松尾 道郎 君
 - 3番 柳 雫 圭 太 君
 - 4番 小笠原 君 男 君
 - 5番 和田 誠 君
 - 6番 山田 将之 君
 - 7番 栗谷川 柳子 君
 - 8番 藤原文雄 君
 - 9番 番屋 博光 君
 - 10番 千葉 有子 君
 - 11番 久慈 聡 君
 - 12番 澤田 道憲 君
 - 13番 佐々木 和志 君
 - 14番 竹原 義人 君
-

○欠席議員(0人)

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

○町長部局

説明員	三戸町長	松尾和彦 君
委任説明員	副町長	馬場浩治 君
	参事(住民福祉課長事務取扱)	貝守世光 君
	参事(総務課長事務取扱)	武士沢忠正 君
	健康推進課長	太田明雄 君
	会計管理者(会計課長)	井畑淳一 君
	農林課長	極檀浩 君
	建設課長	齋藤優 君

まちづくり推進課長	中 村 正 君
税 務 課 長	下 村 太 平 君
三戸中央病院事務長	松 崎 達 雄 君
総務課財政指導監	多 賀 昭 宏 君
まちづくり推進課やわらかさんのへ交流室長	北 村 哲 也 君
三戸中央病院事務次長	中 村 義 信 君
総務課防災危機管理室長	馬 場 幸 治 君

○農業委員会事務局

説 明 員 会 長	梅 田 晃 君
委任説明員 事務局 長	極 檀 浩 君

○教育委員会事務局

説 明 員 教 育 長	慶 長 隆 光 君
委任説明員 事務局 長	櫻 井 学 君
史跡対策室長	金 子 祐 之 君

○職務のために出席した事務局職員

参事（議会事務局長事務取扱）	馬 場 均 君
総括主幹	櫻 井 優 子 君

午前10時00分 開会・開議

○議長（竹原 義人君）

ただいまから第519回三戸町議会定例会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

ここで議事に入る前に、議会運営委員会の経過と結果について、議会運営委員会委員長の報告があります。

8番、議会運営委員会、藤原文雄委員長。

○議会運営委員長（藤原 文雄君）

議会運営委員会の審議の経過と結果についてご報告いたします。

第519回三戸町議会定例会の議事日程を審議するため、8月22日、午前10時、委員会を招集。馬場副町長の出席を求め、審議の結果、次のとおり決定いたしました。

9月3日、午前10時、本会議、開会、開議。会議録署名議員の指名を行い、会期を9月3日から9月10日までの8日間と定め、諸般の報告を行います。次に、議案を一括上程し、町長に提案理由の説明を求め、散会。

9月4日は議案熟考のため休会。

9月5日、本会議、午前10時開議。一般質問を行い、散会。

9月6日、午前10時開議。議案第42号から議案第50号までの審議、採決を行い、次に議案第51号から議案第58号までの決算認定8件を審査するため、決算特別委員会を設置、これに一括付託し、散会。

9月7日並びに8日は休日のため休会。

9月9日、午前10時、決算特別委員会を開会、開議。令和5年度一般会計決算歳入と歳出1款から歳出9款までを審査し、散会。

9月10日、午前10時、決算特別委員会を開議。一般会計決算歳出10款から歳出13款までを審査し、次に令和5年度特別会計決算認定7件を審査、最後に決算認定8件についてそれぞれ採決し、委員会を閉会。

同日、午後4時、本会議を開議。議案第51号から議案第58号までの決算認定8件の審査の結果について決算特別委員会委員長に報告を求め、採決を行います。次に、各常任委員長から所管事務調査の報告、請願の審査結果の報告、閉会中における所管事務調査の申出並びに諸般の報告を行い、午後5時閉会予定と決定いたしました。

以上で報告を終わります。

令和6年9月3日 三戸町議会運営委員会委員長 藤原文雄。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（竹原 義人君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により、議長において7番、栗谷川柳子議員、8番、藤原文雄議員を指名します。

日程第2 会期の決定

○議長（竹原 義人君）

日程第2、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から9月10日までの8日間をしたいと思えます。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。会期は、本日から9月10日までの8日間と決定しました。

日程第3 諸般の報告

1. 町長の報告

○議長（竹原 義人君）

日程第3、諸般の報告を行います。

町長から報告第7号について報告があります。

町長。

○町長（松尾 和彦君）

私からの報告でございますが、報告第7号 健全化判断比率及び資金不足比率の報告について申し上げます。

本件は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項及び第22条第1項の規定により、令和5年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率を報告するものであります。

実質赤字比率、連結実質赤字比率については、前年度と同様に赤字は生じておりません。

実質公債費比率は、9.6%となり、前年度と比較して0.4ポイントの減となっております。

将来負担比率については、充当可能財源等が将来負担額を上回り、比率は算定されておられません。

資金不足比率については、いずれの会計においても資金不足額は生じておりません。

以上が、健全化判断比率及び資金不足比率の概要であります。

2. 議長の報告

○議長（竹原 義人君）

次に、議長の報告を行います。

監査委員から、令和6年6月から8月に実施した例月出納検査結果の報告がありましたので、写しをお手元に配付しておきましたからご了承ください。

次に、地方自治法第121条の規定により、本定例会に説明員として出席要求を行い、出席通知のありました者の職、氏名を一覧表としてお手元に配付しておきましたからご了承ください。

次に、今定例会において受理した請願をお手元に配付した請願文書表のとおり、所管の常任委員会に付託しましたので、報告します。

次に、町長から議案の提出がありましたので報告します。議案は事前に配付してあります。

日程第4 町長提案理由の説明

○議長（竹原 義人君）

日程第4、議案第42号から議案第58号までを一括上程いたします。

上程しました各議案について、提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（松尾 和彦君）

本日ここに、第519回三戸町議会定例会の招集のご案内を申し上げましたところ、議員の皆様にはご多用の折にもかかわらず、ご出席を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

まず、先月13日に急逝されました町ふるさと応援大使、下村尊則様に対しまして、謹んで哀悼の意を表します。下村青さんこと下村尊則様は、当町出身のミュージカル俳優として我々町民をはじめ、多くのファンに夢と希望を与えてくださる存在でした。今は、ただ突然の訃報に、深い悲しみと喪失感の中にありますが、後日下村さんをしのお機会がかなう際には、町として改めて深く弔意を示し、ご冥福をお祈りしたいと考えております。

さて、さきの8月8日に宮崎県で震度6弱を記録した地震により、日本列島では東海地方から九州沖の広い範囲で南海トラフ大地震注意報が発令されました。

想定エリアから遠い当町ではありますが、大地震が発生した際の対応や支援などについては、平時からの備えが重要であると考えているところであります。

また、お盆前に接近した台風5号については、進路予想が太平洋側から東北地方を縦断する特有の形態で、以前には近隣で甚大な被害をもたらしていることから、過去の状況を十分に分析し、警戒に当たりました。幸いにも当町では、大きな被害はありませんでしたが、台風10号や今後の台風など急激な気象変化といった町民の人命や財産に関わる災害については今後も万全の体制で対応していく所存であります。

今年の夏も連日気温の高い日が続いており、町民の皆様にはさぞ厳しい日々をお過ごしのことと思われまふ。特に高齢者等の熱中症の予防には十分配慮してまいりたいと思ひます。

この盛夏の中、7月21日には、商工会青年部の主催によるさんのへ川まつりが、また8月3日、4日の両日には、町の夏の風物詩であるさんのへ夏まつりが行われ、多数の町民の皆様のご参加、またご来場をいただき、癒やしのひとときを過ごされたことと思ひます。

これらの恒例の行事は、私たちが暮らす町の自然の豊かさや、先人たちが紡いできた歴史の結晶でもあると考えております。

関係者の皆様のごこれまでのご努力に厚く感謝申し上げますとともに、町といたしましても、引き続き支援してまいりたいと考えております。

また、三戸高校では、クリエイティ部が全国高校総合文化祭郷土研究部門、公共・政策の部で最優秀賞に輝きました。生徒一人一人の創造性と努力が実を結んだことは大変喜ばしく、今後も生徒一人一人が輝ける高校となっていくことを期待しております。

このように、町政への取組は、不易流行の考え方を念頭に置きつつ、行政と町民がともに協力し、まちづくりを進める姿勢を常に忘れず、町の発展に努めてまいりたいと考えております。

今後も議員各位のご理解とお力添えをお願い申し上げます。

それでは、次より、今回提案いたします案件について、その概要を順次ご説明申し上げます。

初めに、議案第42号 三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案について申し上げます。

本案は、国民健康保険法の一部を改正する法律が令和6年12月2日から施行される予定であることから、所要の改正を行うものであります。

改正の内容であります。同日から現行の健康保険証の発行が終了し、マイナンバーカードでの保険証利用を基本とする仕組みに移行することに伴い、被保険者証の返還に応じない者に対する罰則規定の削除等が主なるものとなっております。

次に、議案第43号 青森県後期高齢者医療広域連合規約の変更について申し上げます。

本案は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部改正により、令和6年12月2日以降、現行の被保険者証が廃止されることに伴い、青森県後期高齢者医療広域連合から、当該広域連合規約の変更について、地方自治法第291条の3第1項の規定に基づく協議の依頼があったことから、同法第291条の11の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

次に、議案第44号 財産取得について申し上げます。

本案は、当町における消防体制の充実強化を図るため、三戸町消防団第15分団に配備する消防ポンプ自動車1台を購入しようとするものであります。

去る7月25日に指名競争入札を執行した結果、三栄防火機材株式会社が落札いたしましたので、購入価格2,689万8,600円により、物品売買契約を締結することとするため、地方自治法第96条第1項第8号並びに議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

次に、議案第45号 三戸町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて申し上げます。

本案は、9月30日をもって任期満了となる佐藤栄子氏を引き続き教育委員に任命いたしたく、提案するものであります。

佐藤氏であります。人格高潔で識見に優れ、教育委員として適任者であると存じますので、何とぞ全会一致にてご同意を賜りますようお願い申し上げます。

次に、議案第46号 三戸町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについて申し上げます。

本案は、令和6年9月26日をもって任期満了となる、固定資産評価審査委員会委員、熊林正美氏を再任いたしたく、提案するものであります。

熊林氏は、農業を営む傍ら、青森県たばこ耕作組合理事を務め、また平成21年6月に当委員に選任されて以降、15年間にわたりご尽力いただいているところであり、最適任者であると存じますので、何とぞ全会一致にてご同意を賜りますようお願い申し上げます。

次に、議案第47号 三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて申し上げます。

本案は、令和6年12月31日をもって任期満了となる人権擁護委員について、新たに中村孝範氏を人権擁護委員に推薦いたしたく、提案するものであります。

中村氏は、広く社会の実情に精通され、地域のため社会福祉及び社会教育活動に従事されている経験から、人権擁護委員として適任者であると存じますので、人権擁護委員法第6条第3項の規定により議会の意見を求めるものであります。

次に、議案第48号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第3号）について申し上げます。

本案は、令和6年度三戸町一般会計既決予算額66億8,417万円に、歳入歳出それぞれ7,975万1,000円を追加し、予算総額を67億6,392万1,000円にしようとするものであります。

歳入の主なる内容といたしましては、国庫支出金4,864万7,000円、繰越金5,974万1,000円を増額補正しようとするものであります。

歳出の主なる内容といたしましては、総合行政情報システム標準化対応業務委託料等総務費2,606万3,000円、児童手当等民生費3,649万6,000円、桜木等維持管理委託料等商工費1,001万5,000円を増額補正しようとするものであります。

次に、議案第49号 令和6年度三戸町営簡易水道事業会計補正予算（第1号）について申し上げます。

本案は、令和6年度三戸町営簡易水道事業会計の収益的収入において、既決予定額9,077万9,000円に582万8,000円を追加し、総額を9,660万7,000円に、収益的支出において、既決予定額9,480万2,000円に582万8,000円を追加し、総額を1億63万円にしようとするものであります。

また、特例的収入において、既決予定額280万円に12万1,000円を追加し、総額を292万1,000円に、特例的支出において、既決予定額647万1,000円に76万5,000円を追加し、総額を723万6,000円にしようとするものであります。

次に、議案第50号 令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算（第1号）について申し上げます。

本案は、令和6年度三戸町下水道事業会計の特例的収入において、既決予定額206万円から92万2,000円を減額し、総額を113万8,000円に、特例的支出において、既決予定額738万3,000円に17万5,000円を追加し、総額を755万8,000円にしようとするものであります。

次に、議案第51号 令和5年度三戸町一般会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

令和5年度の一般会計決算は、歳入総額71億9,138万4,100円、歳出総額69億2,664万3,345円で決算がなされ、歳入歳出差引額は2億6,474万755円となっております。

この歳入歳出差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源である、繰越明許費繰越額499万9,000円を差し引いた、2億5,974万1,755円が実質収支額となります。

なお、地方自治法の規定により、1億3,000万円を財政調整基金に積立てし、1億2,974万1,755円を翌年度へ繰越ししております。

決算額を前年度と比較いたしますと、歳入においては2.7%、金額で1億9,712万6,000円の減であり、歳出においては1.9%、金額で1億3,283万2,000円の減となっております。

歳入のうち、地方交付税は、全体の47.0%に当たる33億7,707万4,000円で、0.4%の減となっております。

また、町税は、全体の12.6%に当たる9億344万2,000円で、1.7%の増となっております。

次に、歳出であります。義務的経費である人件費、扶助費、公債費の総額は、全体の39.5%に当たる27億3,886万4,000円であり、前年度と比較いたしますと2.4%の

増となっております。

投資的経費である普通建設事業費、災害復旧事業費の総額は、全体の8.1%に当たる5億6,123万5,000円であり、前年度と比較いたしますと14.1%の減となっております。

その他、物件費、各種団体への補助金、繰出金などの総額は、全体の52.4%に当たる36億2,654万4,000円であり、前年度と比較いたしますと2.8%の減となっております。

以上が一般会計決算の概要であります。

次に、議案第52号 令和5年度三戸町立学校給食共同調理場特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

本特別会計は、学校給食法に基づき、町内小中学校の児童生徒508名、新たに昼食の提供を開始した三戸高校の生徒78名、関係職員81名に対し、延べ12万82食の完全給食を提供したものであります。

給食費については、1食当たり小学生を280円、中学生、高校生及び関係職員を300円としておりましたが、6月から児童生徒分の無償化を実施いたしました。

令和5年度の決算は、歳入総額3,806万802円、歳出総額3,798万2,821円、歳入歳出差引額は7万7,981円となっております。

歳入の主なる内容は、給食材料費に充てるための保護者及び関係職員負担金1,319万6,000円、無償化分等の一般会計繰入金2,462万9,000円であり、歳出の主なる内容は、給食材料費3,798万2,000円となっております。

次に、議案第53号 令和5年度三戸町営簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

本特別会計は、杉沢、蛇沼、大舌、貝守、袴田、横沢及び沼ノ久保地区の384戸への簡易水道給水事業を行うものであります。

令和5年度の決算は、歳入総額3,424万4,158円、歳出総額2,706万5,260円、歳入歳出差引額は717万8,898円となっております。

歳入の主なる内容であります。水道使用料985万円、一般会計繰入金1,826万6,000円、簡易水道費債260万円となっております。

歳出の主なる内容であります。総務管理費917万7,000円、簡易水道管理費521万1,000円となっております。

次に、議案第54号 令和5年度三戸町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

本特別会計は、下水道整備により、町民の生活環境の改善を図るとともに、公共水域の水質汚濁を防止し、豊かな自然環境の保全を行うものであります。

令和5年度の決算は、歳入総額2億633万5,869円、歳出総額1億9,647万1,781円、歳入歳出差引額は986万4,088円となっております。

歳入の主なる内容であります。使用料及び手数料2,447万8,000円、一般会計繰入金1億2,444万7,000円、公共下水道費債5,470万円となっております。

歳出の主なる内容であります。施設管理費3,610万2,000円、公債費1億5,321万6,000円となっております。

なお、令和5年度末の加入世帯数は569世帯、加入率は47.0%となっております。

次に、議案第55号 令和5年度三戸町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

本特別会計は、後期高齢者医療制度において、当町が行う事務を適正かつ円滑に実施するとともに、75歳以上の高齢者及び一定の障害があると認定された65歳以上の皆

様が、安心して医療サービスを受けることができるよう設置したものであります。

令和5年度の決算は、歳入総額1億4,966万280円、歳出総額1億4,747万7,864円で、歳入歳出差引額は218万2,416円となっております。

歳入の主なる内容であります。保険料が9,979万円で、歳入全体の66.7%、保険基盤安定繰入金及び広域連合共通経費等繰入金が4,960万8,000円で、33.1%を占めております。

歳出の主なる内容であります。後期高齢者医療保険料負担金、保険基盤安定負担金及び広域連合共通経費負担金の合計が1億4,708万5,000円で、歳出全体の99.7%を占めております。

本制度は、青森県後期高齢者医療広域連合が主体となり運営を行っているところであり、町といたしましては、引き続き、窓口業務や保険料徴収などに関して、適正かつ円滑に実施してまいります。

次に、議案第56号 令和5年度三戸町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

本特別会計は、当町が行う介護保険事業について、介護保険法第3条の規定に基づき設置したものであります。

第8期介護保険事業計画の最終年度である令和5年度の決算は、歳入総額18億3,749万5,637円、歳出総額17億2,516万4,580円で、歳入歳出差引額は1億1,233万1,057円となっております。

このうち、介護保険給付費準備基金条例の規定により、1,848万5,000円を同給付費準備基金へ積立てし、9,384万6,057円を翌年度へ繰り越しております。

歳入の主なる内容であります。国庫支出金、県支出金及び支払基金交付金の総額が11億4,697万5,000円で、歳入全体の62.4%、一般会計からの繰入金が2億5,217万3,000円で、13.7%を占めております。

このほか、第1号被保険者保険料は3億796万9,000円であり、歳入全体の16.8%を占めており、その徴収率は97.6%となっております。今後においても、制度の公平性の確保の観点から、保険料の徴収に努めてまいります。

歳出の主なる内容であります。各種介護サービスに係る保険給付費が15億4,588万7,000円で、歳出全体の89.6%を占めており、前年度と比較しますと1,875万2,000円の増となっております。

介護保険事業の運営に当たりましては、第9期介護保険事業計画に基づき、引き続き、適正かつ持続可能な事業運営に努めてまいります。

次に、議案第57号 令和5年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について申し上げます。

本会計は、被保険者の疾病、負傷、出産、死亡に関する保険給付及び生活習慣病予防に向けた健康づくりを行う事業であります。

令和5年度の決算は、歳入総額13億757万5,756円、歳出総額12億7,714万6,594円で、歳入歳出差引額は3,042万9,162円となっております。

このうち、国保財政調整基金条例の規定により、1,309万4,000円を同財政調整基金へ積立てし、1,733万5,162円を翌年度へ繰越しております。

歳入の主なる内容であります。国保税が2億3,630万5,000円で、歳入全体の18.1%、県支出金が9億1,997万8,000円で、70.4%を占めております。

歳出の主なる内容であります。保険給付費が8億7,917万5,000円で、歳出全体の68.8%、国民健康保険事業費納付金が3億2,030万3,000円で、25.1%を占めております。

国保税の現年度及び過年度分を合わせた徴収率は、89.3%となっており、前年度より0.9ポイント上回っております。

国保税の納税につきましては、国保事業推進のためにも、町民の皆様の一層のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

次に、議案第58号 令和5年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計決算認定について申し上げます。

本会計は、町民の健康保持に必要な医療を提供するとともに、保健衛生の向上に資するため設置する、三戸中央病院の運営及び管理に関する会計であります。

本会計の経理に当たっては、地方公営企業法の規定により、収益的収支と資本的収支に区分し、処理しております。

収益的収支における収入総額は、17億7,376万3,000円、支出総額は16億6,483万75円で、差引き1億893万2,925円の純利益となっております。

収入の主なるものは医業収益であり、合計は11億4,834万円で、収入全体の64.8%となっております。

医業収益のうち入院・外来収益は、患者数の減少により、前年度と比較し、4,641万5,000円の減となっております。

また、支出の主なるものは医業費用であり、合計は15億8,247万8,000円で、支出全体の95.1%となっております。

医業費用は、給与費、経費等の減により、前年度と比較し、5,619万4,000円の減となっております。

次に、資本的収支であります。収入総額は、1億9,261万円、支出総額は2億7,023万5,793円で、差引き7,762万5,793円の不足額につきましては、当年度損益勘定留保資金で補填しております。

収入は、他会計負担金1億6,451万4,000円、補助金2,809万6,000円となっております。

また、支出の主なるものは、建設改良費3,782万6,000円、企業債償還金2億3,180万8,000円となっております。

病院経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、地域医療の維持・強化のため、医療従事者の確保に努めるとともに、効率的な病院経営により、地域の皆様に信頼され、選ばれる病院となるよう、引き続き努力してまいります。

以上、案件についてご説明申し上げましたが、議員の皆様におかれましては、十分ご審議の上、原案どおり御議決を賜りますようお願いを申し上げます。私の提案理由の説明を終わらせていただきます。

散 会

○議長（竹原 義人君）

以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

午前10時44分 散会

第3日目 令和6年9月5日(木)

○議事日程

第1 一般質問

久慈 聡議員	1. 三戸城跡史跡指定と観光振興の連携について
柳雫 圭太議員	1. 合葬墓の整備について
五十嵐 淳議員	1. 次世代への教育・人材育成の取り組みについて
-

○本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○出席議員(14人)

1番	五十嵐	淳	君
2番	松尾	道郎	君
3番	柳雫	圭太	君
4番	小笠原	君男	君
5番	和田	誠	君
6番	山田	将之	君
7番	栗谷川	柳子	君
8番	藤原	文雄	君
9番	番屋	博光	君
10番	千葉	有子	君
11番	久慈	聡	君
12番	澤田	道憲	君
13番	佐々木	和志	君
14番	竹原	義人	君
-

○欠席議員(0人)

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

○町長部局

説明員	三戸町長	松尾和彦	君
委任説明員	副町長	馬場浩治	君
	参事(住民福祉課長事務取扱)	貝守世光	君
	参事(総務課長事務取扱)	武士沢忠正	君
	健康推進課長	太田明雄	君
	会計管理者(会計課長)	井畑淳一	君
	農林課長	極檀浩	君
	建設課長	齋藤優	君
	まちづくり推進課長	中村正	君
	税務課長	下村太平	君
	三戸中央病院事務長	松崎達雄	君
	総務課財政指導監	多賀昭宏	君
	まちづくり推進課やわらかさんのへ交流室長	北村哲也	君

三戸中央病院事務次長
総務課防災危機管理室長

中 村 義 信 君
馬 場 幸 治 君

○農業委員会事務局

説 明 員 会 長
委任説明員 事 務 局 長

梅 田 晃 君
極 檀 浩 君

○教育委員会事務局

説 明 員 教 育 長
委任説明員 事 務 局 長
史跡対策室長

慶 長 隆 光 君
櫻 井 学 君
金 子 祐 之 君

○職務のために出席した事務局職員

参事（議会事務局長事務取扱）
総括主幹

馬 場 均 君
櫻 井 優 子 君

午前10時00分 開議

○議長（竹原 義人君）

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

日程第1 一般質問

<11番 久慈 聡議員>

1. 三戸城跡史跡指定と観光振興の連携について

○議長（竹原 義人君）

日程第1、一般質問を行います。順次に質問を許します。

11番、久慈聡議員。

○11番（久慈 聡君）

まず初めに、台風10号によって被害に遭われた方々に対して、まずは心よりお見舞い申し上げたいと思っております。また、いつ何どき私たちの地域で起き得るかもしれないことでもあり、町民が安全に、安心して暮らせる準備やその体制の構築、この重要性を再認識、再確認させられるところでもありました。

さて、本会議終了後は、さんのへまつり、そして町長選挙となります。選挙前、最後の一般質問でありますことから、議場内においては節度を持った責任ある答弁をお願いいたします。さらに、執行部の皆様におかれましては、誠実で明瞭な答弁をお願い申し上げ、今回の私の一般質問に入らせていただきます。

三戸城跡史跡指定と観光振興の連携について。令和4年3月15日に三戸城跡城山公園が国史跡に指定され、2年半がたとうとしております。史跡指定となる以前の段階から、観光振興につなげていくための手法を、担当課だけではなくプロジェクトチーム等をつくって進めてもらいたい、その旨を強く要望してきたところでもありますが、町長は人的資源の業務内容を考え、つくってはいただけませんでした。その代わり、各課が連携し、観光振興につなげていくと答弁をいただいたと記憶しております。

私は、平成29年、令和元年ほか、何度も城山公園の重要性和安全性、活用方法について質問を続けてきました。平成29年には、観光の目玉としてジップラインを造ったらどうかなど、具体的な話もさせていただいておりました。

私は、史跡指定が重要課題であることを踏まえ、令和3年12月にも城山公園を含めた町全体の振興策や職員組織体制、外部団体の協力、連携体制に関して質問させていただいております。令和4年3月、関係部署の皆様の尽力もあり、史跡指定されることができましたことに関しては、非常に喜ばしいことでもあります。このことから、史跡指定されてから現在までの観光振興についてを中心に、今回再度確認と質問をさせていただくことにいたしました。

教育委員会は、史跡としての保存、復元を重要視していかなければなりません。まちづくり推進課は、観光地としての利便性向上のための整備と相反する方向に考え、進んでいることから、町の方向性を明確にさせていただきたく、繰り返し質問をしてきた経緯を踏まえていただき、史跡関係の一般質問を開始しました令和元年から約5年

過ぎており、現状確認も含め、以下5点に関してお伺いいたします。

- 1、史跡指定後の現状について。
- 2、城山公園を活用した事業と観光政策での成果と今後について。
- 3、三戸城跡を観光資源とした観光者のリピーター状況とその仕組みづくりについて。
- 4、観光実績、評価、対策、観光事業者との連携と支援について。
- 5、史跡指定後の今後について。よろしく申し上げます。

○町長（松尾 和彦君）

おはようございます。それでは、久慈議員の質問にご答弁を申し上げます。

三戸城跡史跡指定と観光振興の連携についてのご質問でございますが、私のほうからは2点目から4点目まで答弁を申し上げます。

初めに、2点目の城山公園を活用した事業と観光政策での成果と今後についてであります。国史跡三戸城跡城山公園は町の歴史と文化を物語る重要な財産であるとともに、観光資源としても大変価値のあるものと考えております。

三戸城跡は、古くから城山公園として町内外の行楽客から親しまれており、県南を代表する豊かな自然環境を生かした地域のシンボルに位置づけられてきました。令和4年3月に国史跡に指定されたことは、町にとって非常に意義深いことであると同時に、指定以降は地域の観光振興の大きな契機と捉え、観光施策を強化し、地域全体の活性化を図るための取組を進めてきたところであります。

現在策定中の史跡三戸城跡保存活用計画書においても、公園としての機能を基本的に継続して使用することとし、歴史遺産と自然公園が共存しながら、地域振興の拠点として活用を進めていくことを明示しているものであります。

国史跡三戸城跡城山公園を活用するに当たりましては、遺跡の保存に十分配慮し事業を行う必要があることから、教育委員会に意見を求めるなど、日頃からまちづくり推進課と教育委員会とで連絡を取り合い、互いに意見交換しながら連絡を密に行っているところであります。

これまでの主な取組といたしましては、国史跡指定となったことを町内外に広くPRするため、町内商店へ周知用ポスターの掲示を依頼したほか、城山公園内での国史跡指定記念イベントを開催し、約600人の皆様にご来場いただきました。このほか、恒例となっているさんのへ春まつりや春と秋の公園内のライトアップ、熱気球搭乗体験など、城山公園を活用したイベントを行ってまいりました。

また、地域全体の活性化を図るための取組といたしましては、国史跡指定を記念し行った城山公園スタンプラリーでの商品券の配付や商品開発に対する補助金制度も創設してきたところであります。

さらに、本年10月5日には、地域の団体の皆様との共同企画であるさんのへ城山フェスタの開催に向けて、現在準備を進めているところであります。このイベントは、国史跡三戸城跡城山公園の魅力を町内外に発信し、来園者の増加を目指すとともに、その来園者を町内に回遊させ、消費につなげる仕組みをつくり、町と地域団体とが協力、連携して一緒に町の活性化につなげるイベントにしていきたいと考えているところであります。

次に、3点目の三戸城跡を観光資源とした観光者のリピーター状況とその仕組みづくりについてであります。城山公園は一部の施設を除き出入りを自由に行っていること、また各種のイベント等における来園回数の調査などは行っておりませんので、リピーターの数の把握はしていないところであります。

今年の城山公園の桜は、野鳥による食害や樹勢の衰退等による影響で、満開の桜を楽しむに来てくださる多くのお客様や我々にとっても、大変残念な結果となってしまいました。

今定例会には、桜木の野鳥対策、樹勢回復等に必要な経費を補正予算に計上しているところであります。町の宝である城山公園の桜を守るため、桜の維持管理に力を入れてやっていかなければならないと考えております。

桜の名所をはじめ、多くの皆様に愛され利用されている城山公園の環境を整備することが、より魅力を高め、リピーターの確保にもつながるものと考えております。

次に、4点目の観光実績、評価、対策、観光事業者との連携と支援についてであります。青森県観光入込客統計では、コロナ前の令和元年の町全体の入り込み客数が54万7,255人で、令和5年は約14%増の62万2,857人、このうち城山公園の来園者は、令和元年が6万1,135人で、令和5年は約12%増の7万4,321人となっております。また、道の駅さんのへの売上は、令和元年度が8,844万3,000円で、令和5年度は9,415万2,000円の約6%増となっております。

国史跡指定を契機として城山公園を訪れる方や、11ぴきのねこの石像巡り、各イベントへの参加者など、多くの方が町を訪れることが町内への経済効果にもつながり、一定の成果が得られているものと認識しております。

また、観光事業者等の地域団体との連携については、観光推進事業費補助金や町民提案地域活性化補助金などを交付して、イベント開催への支援を行っているところでもあります。城山公園で行われているさんのへ春まつりやどすこい！ダイナ走などのほか、町内ではさんのへ秋まつり、川まつりなどのイベントが催され、町職員がボランティアスタッフとして協力するなど、相互に連携、協力をしているところでもあります。

今後におきましても、引き続き町内の各種団体をはじめ、町民の皆様が主体となり実施するまちづくり活動への支援を継続していくとともに、町の観光施策の充実を図り、町内の経済効果の波及につなげてまいりたいと考えております。

○教育長（慶長 隆光君）

三戸城跡史跡指定と観光振興の連携につきまして、1点目の史跡指定後の現状についてであります。教育委員会では史跡指定後、三戸城跡の知名度向上を目指した周知と活用事業を展開しております。具体的には、城跡内の要所へ大型ののぼりの設置や史跡のPR動画の制作と発信、城歩きガイドの設置、来場を記念した御城印の販売、一般や団体を対象とした城歩きの実施、著名な講師を招いた講演会、三戸お城講座など、様々な取組を実施しており、現在もこれらの事業は継続して行っております。

また、周知活用事業と並行して、史跡の保存活用計画策定作業を行っております。この計画は、史跡の適切な保存管理や活用における基本方針、現状変更等の取扱基準を定めるもので、計画の策定に当たっては専門家を交えた委員会を設置し、計画の内容について審議を重ねてまいりました。現在策定中の計画は、9月末に冊子として刊行される予定となっております。

なお、保存活用計画書は、史跡を将来にわたって確実に保存することを前提としたものであり、策定に当たってはこれまで国と県から慎重な審査を受けております。

次に、5点目の史跡指定後の今後についてであります。先ほどの答弁で申し上げました史跡の保存活用計画書が刊行された後は、史跡の本質的価値の活用を図るため、現地の整備に着手していきたいと考えております。

なお、整備を実施する場合は、国が定めた手順に従って進めることとなります。初めに、整備の全体像をイメージ化した整備基本構想を策定します。次に、整備基本構

想をより具体化した内容の整備基本計画を策定します。これらの計画を策定した後、必要に応じて整備予定地の発掘調査事業を開始し、調査で得られた歴史情報を基に、整備実施計画を策定することとしております。この実施計画の完成後、整備に着手することが可能となるものです。

以上のように、史跡の整備には事前の細かな検討と審議を重ねるプロセスが伴うことから、大変長い期間を必要とします。

参考までに、周辺の史跡整備の事例を紹介いたします。まずは、八戸市の史跡根城跡ですが、現在の史跡根城の広場のオープンまでに要した整備の期間は24年間に及びます。

次に、南部町の史跡聖寿寺館跡ですが、平成16年に史跡指定を受けてから、整備に向けた補填調査を昨年まで20年間実施し、現在は令和9年度刊行予定の調査成果報告書の編集作業が行われています。なお、現地の本格的な整備はまだ先のことと伺っております。このように、周辺の史跡整備の事例からも、整備には長い期間を必要とすることが分かります。

なお、教育委員会が現在考えている整備内容としては、現地の石垣をはじめとした貴重な遺構の保護措置や修復を検討しており、最終的にはできるだけ当時の景観に戻していく方向での整備を目指すものとしております。

最後になりますが、教育委員会では今後も史跡の本質的価値の保存について万全を期すとともに、城跡の魅力を高める整備の実現に努めていきたいと考えております。また、現在利用されている公園機能との調和も図りながら、史跡と自然公園の両面について効果的な活用がなされるよう、引き続きまちづくり推進課など関係課と連携し、取り組んでまいりたいと考えているところであります。

○11番（久慈 聡君）

大体分かりました。保存活用計画に関しては、約2年間ということでしたけれども、ちょっと遅れているけれども、今現在三戸城跡保存活用計画パブリックコメントを8月21日から9月20日まで行っている状況であるというふうに認識しています。その中で、一部ちょっと質問させてもらいたいものだけでも、三戸城の保存活用計画の34ページ、城山公園の観光客数が載っています。先ほど町長の答弁からもありました、観光入り込み客数調査、この約10年間の平均が5万4,000人、令和4年度は8万3,513人ということでした。先ほどの町長の答弁であると、令和5年度は62万2,857人ということ、数字がちょっと違うのですけれども、これが三戸町ということ考えて、城山でいうと7万4,321人ということになります。平均よりは多い形になりますけれども、令和4年度は8万3,000と、史跡指定になったばかりで上がりましたということになりますけれども、5年度はいいとして、6年度が7万よりもちょっと上がる、4年に対しては1万人程度下がっているという状態だと思います。今後観光入り込み客数調査を見ていただいた状況の中で、5年度は7万4,000ということですが、6年度、今年度あって来年度、どのような形になっていくかということ予測できますでしょうか。計画としてこのぐらいを目標にするというような数字というのは、何か提示されているものがありますでしょうか。これは、まちづくり推進課のほうで確認させていただきたいと思います。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

城山公園の入り込み客数についてのご質問でございます。先ほどの三戸町全体の入り込み客数ですと、令和5年が62万2,857人と、このうち城山公園の来園者となりま

すと、令和5年が7万4,321人となっておりまして、本年、令和6年は7万9,638人と見込んでおりまして、前年比でいきますと107%程度というふうに見込んでございます。特段の目標数値というものは定めているものではございませんが、ただいま町長答弁の中にもありましたように、様々なイベント、魅力等を皆さんのほうにお知らせすることによって、来園者数というのは右肩上がりにできるように努力してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

右肩上がりといった形で、目標を持ってやっているよという形であれば問題ないかと思っています。

教育委員会のほうにちょっともう一回確認させてもらいたいのですけれども、今現在保存活用計画の状況、それから構想もやっていく、整備計画を行いますよということで答弁をいただきました。今の現状としては、計画どおり順調に行っているという認識でよかったですでしょうか。その確認です。

○史跡対策室長（金子 祐之君）

ただいまの久慈議員の質問にお答えをいたします。

教育委員会としては、今のところ順調に進んでいるものというふうに認識をしております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

教育委員会として、業務遂行は順調であるよという確認ができたというところで、次の質問に入らせてもらいたいと思います。

今の答弁の中で、まちづくり推進課のほうからのイベント、いろんな形のイベントがありましたよという形でのご答弁をいただきました。ポスターを貼ったよと、それから春まつりを行った、それから記念イベントもしました、ライトアップもしましたよと、そういう形で熱気球、これは11ぴきのねこのやつですけども、それから城山は活用しているよという形の答弁をいただきました。

ただ、城山の中で、山城というのですか、そういったファンが非常に多く、通年観光を考えて、歴史公園にして憩いの場としていきたいという形の答弁をもらっていたと思います。主にスポット的なイベントというのは、今話をされましたようないろんな形のイベントをもらっています。このイベントを実施していますよという政策は分かります。ただ、歴史公園としてやっていきたいというふうに答弁を以前いただいておりますが、それに対して実施をしたもの、要は具体的な内容だったりとか、成果というのがあればお知らせください。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

まず、令和4年3月に、国の史跡の指定を記念いたしました記念イベントのほうを実施してございます。それが春まつりの期間中の4月30日になりますが、三戸町城跡国史跡指定記念イベントと銘打ちまして、町内外に国の指定を受けたことを広くPRするとともに、城山公園内で実施しましたスタンプラリーで、チェックポイントを回った方に商品券を配付して、町内消費を促したものでございます。内容につきましては、流鏝馬体験や甲冑試着体験、太鼓、三味線の演奏の披露等、来場者約600人の皆

様と一緒にお祝いをしたものでございます。

また、来月の5日には、城山公園の魅力を広く発信しまして、来園者の増加を目指すとともに、町内へ回遊する仕組みをつくる、消費につなげようとするさんのへ城山フェスタ2024を開催したいと現在準備を進めているところであります。熱気球の搭乗体験に始まりまして、恐竜の着ぐるみレースだとか、デジタルチャンバラ大会、アコースティックライブ等、子供から大人まで、ご家族連れにも楽しめるイベントを計画しているものでございます。今回のイベントは、町と各種団体が共同で実施するものでございまして、このように町民の皆様が主体となってまちづくりを進めて、町の活性化、経済の活性化につなげていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

分かりました。スポット的な内容は分かります、イベント等ですね。教育委員会の考えとした中では、歴史的な部分を広めていきたいという形でした。教育委員会としては、先ほどのイベントの質問と同様に、スポット的なイベントではなくて、教育委員会として実施したイベントだったりとか、スポット的なイベントではなく、実施した具体的な内容だったりとか、そういう成果があればお知らせください。

○史跡対策室長（金子 祐之君）

それでは、ただいまのご質問にお答えをいたします。

教育委員会では、歴史ファン、あとは学校などの団体に対応した城歩き事業を毎年度実施しております。史跡の指定後の実績といたしましては、令和4年度は20回で延べ370人、令和5年度は17回実施をいたしまして268人を案内しております。なお、令和6年度は8月時点で延べ人数が約250人となっており、令和5年度の人数を上回る見込みであります。城歩きの利用人数は、史跡としての知名度の向上もあり、コロナ禍以前よりも増加している傾向にあります。

また、城歩きは、職員とガイドで対応しておりますけれども、令和5年度まではガイドの登録者が3人ということでもちょっと少なく、来場者へ十分に対応できないということが課題となっております。この課題への対策といたしまして、令和5年12月にガイドの養成講座というものを開催いたしまして、現在は登録者が6人ということで倍増して対応させていただいております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

城歩き、職員も含めてガイドということですが、6名ということで、いろんな形のボランティアの人たちがもっと増えていただければなというふうに期待します。

先ほど町長のほうからの答弁で、連携を取りながら話をしているよということをお話ししたと思います。次に、町長のほうに質問したいと思います。今現在プロジェクトチームというのは、人的資源と、それから業務内容を考えてつくらなかったということだと思いますけれども、その代わり課長会議であったりとか、その他の情報共有を図ると、答弁でもお互いに連携をしながら、話をしているということだったと思います。その中で、多くの提案が今上がって、そのまとめを進めていきたいということでもありますけれども、お互いの提案があり、それを、ではどういう方向性で話をしてまとめていくのかという打合せ会議ということになるかと思えます。実際は、どのよ

うな形でプロジェクトチームの代わりに検討会だったり、情報交換を実施されたのかということをお聞きしたいと思います。

○町長（松尾 和彦君）

ただいまの久慈議員からのご質問でございますが、こういった検討や活動を行ってきたのかという部分については、担当課のほうからお答えをさせますので、よろしくをお願いします。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

お答えをいたします。

プロジェクトチームなる課を横断したチームということでの実施につきましては、令和2年の9月に副町長をはじめといたしました総務課、まちづくり推進課、建設課、教育委員会の班長級の職員がメンバーになりまして打合せを行っておるものがございます。内容につきましては、城山公園の整備及び管理に関わる打合せというものが行われております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

プロジェクトチームつくってくれというの、もっと前から話をしている中で、その中で1度、令和2年の9月に話をしたというだけなのでしょうか。答弁の中では、課長会議であったりとか、それ以外でも連携をしてやりますよと、話し合いの中で、具体的な検討会の内容が課長会議で行われたのか、それとも別途で行われたのか、それとどういう期間で行われたのか、何度ぐらい行われたのか、内容はどのようなのかということが聞きたいのです。それを答えられる方は答えてください。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

検討の回数等についてでございますけれども、回数についてはちょっと把握はしてございませんが、その都度問題があるとか、あと協議が必要なものにつきましては、例えば三戸城跡でイベントをしたいというふうなことがあれば、まちづくり推進課と教育委員会、また必要に応じて総務課であるとか、建設課であるとか、そういう課の課長、もしくは担当者同士の打合せ等もございますので、回数というのは把握、調査のほうはしてございませんけれども、必要に応じてその都度行っているものでございます。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

では、今せつかくまち課から答えていただいたので、以前の答弁の中では5回か6回行ったよということをお聞きしておりました。その中で打合せはしているのだなということでしたけれども、イベントがあったときに行うということであれば、まちづくり推進課が主体性を持って会議を行ったということだと思います。

では逆に、教育委員会のほうではどうかなと思います。検討会などとか行ったときに、お互いの主張の中で、あると思いますけれども、逆に教育委員会から何か実施するに当たって、まち課、建設課、総務課に対して会議を開こうといったこと、アクションが起きたことがあるのでしょうか。あったのであれば、事例を教えてください。

○史跡対策室長（金子 祐之君）

ただいまのご質問にお答えをいたします。

史跡の指定地内において、土地の現状の形を変更したりする場合は、史跡を保護するために、行為の内容によっては法律に基づいた規制というものがかかっています。ですので、例年開催される春まつりなどのイベント、あつときに例えばプレハブを建てますとか、公園施設とか工作物の改修、あとは樹木の管理なんかを教育委員会からはまち課が実施するときに、こういうところを注意してくださいよというお話のほうは、お互いにしておるところでございます。ですので、随時情報の共有を図るように、教育委員会もまち課も協力してやっているということになります。

あとは、今年8月の初旬なわけですが、教育委員会とまちづくり推進課の担当者の両名が弘前城跡のほうに行つて、史跡内の桜の管理の方法について弘前市役所の方からちょっとお話を伺うという、そういう視察を行つております。史跡と公園、両方の管理、それから及び活用ということになってきますので、関係課が相互に目的と情報を共有するなどして、連携を図つておるところでございます。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

分かりました。場所というか、土地だったりとか建物やるに関しては設けると思いますが、その部分を変えとなれば法的な手段だったりとか、お互いにそういう話合いの中で、まちづくり推進課ではイベントを企画すると、そういう中で教育委員会がそれを受ける、逆に教育委員会のほうではそれに対して対応するだったりというのも分かりますし、連携するというのも分かります。逆に、まち課と教育委員会の両方にお聞きしたいわけですが、お互いの主張の中で、部分の中で、各課が歩み寄つた部分、ここはまち課の主張に関して、教育委員会が譲歩するだったりとか、そういったお互いの主張があつて、どういった主張があつたのか、またそれに対してどういうところを譲歩した、もしくは踏み寄つたというところがあるのか、もし事例があればお聞きしたいと思います。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

それぞれの教育委員会との主張が違つても、歩み寄つたところはあるかというご質問かと思つます。まず、三戸城跡の城山公園を使うに当たりましては、史跡の本質的価値を保存して次の世代につなげていくのだと、継承するということが基本になっているわけですので、それぞれの主張が違つというか、あつた場合でも、それぞれ必要であれば修正をしながら、どうすればやつていけるか、実現できるかというのを考えて一緒に取り組んでいるわけですので。まず、まちづくり推進課とすれば、強いて言うとするならば、例えば施設等の看板とか案内板を設置しようとした際に、掘削が駄目なのであれば、地表に乗せる方法であつたりとか、木にくくりつける等の工夫をしてやつたりとか、必要に応じ、その都度相談をして行つているわけですので。

以上です。

○史跡対策室長（金子 祐之君）

教育委員会も、まち課とお返事、回答につきましては同じになりまして、お互いに必要なとき、その都度その都度こういうのどうかなというところの話をして、協議を行つておるところですので、こちらからこういうのをやつてくれとかというふ

うに、これは駄目だよとかというような言い方で協議をしているということはありません。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

分かりました。お互いに話をしながらやっているということも分かりました。基本的な城山の保存計画に関しては、皆さん中で共有がされていて、その中でアクションが起きているよというふうな認識でよいのかなと思います。

それでは、3番目のほうの質問に移ります。リピーターは、難しいということもありましたし、調べることができないですよということだったと思います。その中でも、町長の言葉からも町の宝であるよと。桜もそうですし、今からも含めて町の宝として城山を保存、維持していきたい、それを観光につなげていきたいということも聞きました。

以前の令和3年の12月の質問で、今は違いますけれども、木村先生の講義をお伺い、「NobuとToshi」で聞きまして、そのときに1度来た方は2度来ない方があると、それについて2度来ていただけるための仕組みについて、どのような考えがありますかという質問をさせていただいたと思います。まちづくり推進課では、毎年の恒例行事を行っていきますよ、城歩きのコースを増やしますよという回答だったと思います。教育委員会としては、新たな発掘や復元をしてリピーターを増やしたいということだったと思います。これについて、何か教育委員会でも、まちづくり推進課でも変更等、私が以前質問したのに対応した回答について、何ら変更はないという形でしょうか、お伺いします。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

以前の内容と変わりがないかということですが、先ほどまちづくり推進課の中で城歩きのコースを増やすというふうなお話があったかと思いますが、まちづくり推進課で城歩きのコースというのを増やすということはございませんで、教育委員会のほうで城歩きのコースというものは設定しているものかと思いますが、様々なコースを利用させていただきたいということでは、まちづくり推進課のほうでの考えとしてお伝えすることはあるかとは思いますが、それまでの間で何か変わったことがあるかというご質問でございますが、特にございません。

以上です。

○史跡対策室長（金子 祐之君）

教育委員会からご答弁申し上げます。

教育委員会といたしましても、特に変わった点、変えた点というものはございません。

以上でございます。

○11番（久慈 聡君）

まち課のほう、毎年の恒例行事を行いますよというところで、それがリピーターの仕組みづくりであるというふうな認識でいるのかなというところもあるのですけれども、実際人数は増えているということですのでけれども、リピーターが増えているというふうなことは調べられないということだったと思うのですけれども、その中で何か同じような方が来るだったりとか、そういった部分も含めて肌で感じる部分があるかど

うかというのを1点お聞きしたいと思います。

あと、先ほどの城山の城歩きのコースに関して、私の記憶ではまち課の答弁の中に入っていたと思ったので、今回こうやって話をさせてもらっていましたが、ちょっと後で私も確認してみます。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

リピーターが増えたかということを感じているかというご質問かと思えます。町長答弁にもありましたけれども、調査のほうを行ってはいませんので、明確に増えていると断言、言い切ることはちょっと難しいとは思いますが、例えば去年の桜と比べて今年は寂しかったねとか、遊具でたくさんの子供たちとか、毎年楽しみにしていますとか、楽しんでますとか、来ていますというようなお話を聞くことがございますので、そういう方々というのはリピーターとして多くいるのではないかというふうに感じております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

リピーターの仕組みということに関して言わせてもらおうと、リピーターがリピートになる仕組み、リピーターとなる仕組みというのですか、基本的にはサービスの差別化だったり独自性、リピーターだけの特典、もしくはリピーターの人たちの口コミサービス、増えない理由としては印象に残らないだったりとか、サービスがニーズに対応できていなかったりとか、集客方法がなかなか難しかったりとかという形になるかと思えます。

今まちづくり推進課にもお聞きしましたけれども、教育委員会として、リピーターを増やす仕組みとしてどのようなことをしていけばいいかというふうな考えとか案というものがありますでしょうか。

○史跡対策室長（金子 祐之君）

リピーター、つまり再び城山公園のほうに来訪してもらおうというためには、やはり同じことを続けていても、また待っていても期待はできないというふうに考えております。この場合、やはり史跡内において変化といったものを起こす必要があるというふうに考えておりますので、最も取り組みやすいところで申しますと、お城をテーマにした何かイベントを開催するということがあると考えられます。もちろん史跡そのものの魅力を高めていくということが、何よりもこれから大事であるというふうに考えております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

実際に城山公園に増えているよということですが、リピーターがどれだけ増えているか、もしくは今回リピーターの仕組みについて質問させてもらっておりますけれども、リピーターのための仕組みづくりだったりということがきちんと行われているのかというところが、私の中でどうかなというところがあります。実際にイベントをやっているから、だからリピーターが来ているということではなくて、桜があるからリピーターが来ているのかなど。では、桜の観光に当たって、観光の整備はどこまでできているのかなだったりとか、トイレはどうなっているのだろう、安全のためのビデオ監視だたりとか、それからお土産物屋さんだたりとか、そういったも

のがあるかとか、いろんなそういった部分も含めてのリピーターということをお話させてもらっています。例えばランチ食べに行きますよというときに、休みだったらほかに行くでしょうし、店やっけてもメニューがなければ、食べたいものがなければがっかりすると。それに、逆で言うと寒いときに温かいものが食べられるだったりとか、食べたらおいしかったよと、もしくはサービスがついて安かったよとなれば、また来たいなというふうに思ったりすると、それが人としての感情なのかなというふうに思います。

リピーターとしてなるべく、そういう仕組みというのは商売の基本にもなっているのかなというふうに思いますし、商工業をやられている方に関しては基本的な部分であるというふうに思います。他の団体だったり連携して情報交換をしていけば、そういった部分をもっとよくなるのではないかなというところもありまして、今回質問させてもらっています。まちづくり推進課の考え、教育委員会の考えを今聞かせてもらいました。

次に、団体のこと、連携のところについて再質問させていただきますが、根本的なところはリピーターがどれだけ来るか、そういった部分に観点を置いて質問させてもらいたいと思っています。まちづくり推進課のほうに質問させていただきたいと思います。具体的に外部として、どういう業者とどのような形で連携を行って、実績がどれぐらいあるのか、その実績に対してどのような評価をして、次年度対策に、また新しい事業につなげているかをお聞きします。ちょっと大きな質問になるので、答えが難しくなるかもしれませんが、どのような、三戸町の具体的にどこの業者とどんな打合せをして、どんなことを行った、それに対してどういう成果があつて、次年度はどういうふうな形で変えていくか、そういった部分でもし事例があればお知らせください。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

まちづくり推進課でどの業者なり団体と連携行って、実績がどの程度かというご質問かと思えます。まず、大きなイベントといたしましては、さんのへ春まつりであるとか夏まつり、秋まつり等がございます。そちらのほうで見ますと、まず春まつりにつきましては町観光協会が主催で行っているものでございます。町との連携、事業者との連携というところでは、企画段階での相談であるとか、あと会場の準備、まつり期間中の警備、イベントへの出演の協力というのを町職員が全面的に協力をしているものでございます。

また、町の大きなイベントとしては、9月の、今年度は9月27日から3日間で行われます秋まつりがございますが、これは令和4年度からは実行委員会という形を取りまして開催をしております。町と山車組の代表と町観光協会、あと三戸学園ということで、実行委員会を組織して行っているものですが、これにつきましてもそれぞれの団体と互いに役割分担をして、準備、運営を行っているものでございます。

そのほかに、夏まつりになりますと、これは夏まつりの実行委員会、あと冬でいくと元祖まける日も、商工会が中心となった実行委員会というものを組織してございます。こちらのほうについては、まちづくり推進課の職員のほうも実行委員として会議に参加して、企画立案、当日の運営にもお手伝いをしているものでございます。

また、次年度以降の企画等にも、イベント終了後には反省会等で意見を交わして、次年度以降の企画というところでの意見交換というものを行っているものでございます。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

基本的には三戸城跡、城山公園をベースに考えていただきたい。なので、秋まつりとか春まつりとかは、また別かなと思っています。

以前、同じような形で、町全体の振興策としてお聞きしたときの町長の答弁では、町の歴史のインフォメーションをつくる、町の商店、特産物の情報などを広げていってつくっていく、町全体の概要等のPRを行うことが重要であるよと、振興策です。町の全体の振興策として、そういう答弁をもらっています。具体的な対策として、道の駅産直広場、また二戸や八戸の施設への掲示、町のホームページ、SNSへの情報提供、そして南部藩に関わる市町村、東京、仙台、青森在住の三戸の人たちにふるさと納税への情報提供、観光アプリを使います、スタンプラリーによる町内商品券を配付します、三戸町内における三戸城をモチーフとする飲食メニューだったりとか、お土産の開発を補助しますよということでありました。この中で、何点かやっている部分もあるかと思います。継続しているのか、継続していないのか、もしくはやらなかった、やれなかった、そういうのがあれば理由等をお知らせください。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、私のほうからは、お答えできる範囲として、まずPR等につきましては、効果のあるものということ念頭に置きつつ、適時PRはしているものと、そのように考えております。

また、なかなか実は進んでいないというところのものにつきましては、例えば食事の部分、メニューとか、そういったところについては現在もまだ取り組んでいる最中ということで、今後の課題だと考えております。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

先ほどご質問いただいた町全体の施策としてお答えすることによろしいかと捉えてお答えをしたいと思います。

まず、道の駅とか駅等の施設への掲示ということでございますけれども、町が行うイベントの際にはポスターとかチラシ等を、これは町内の施設、主要な施設にはポスターの掲示、道の駅とか産直をはじめ、主要な施設のほうに掲示はお願いをしております。また、二戸駅であれば二戸市の観光課であるとか、八戸駅はVISITはちのほうにお願いをして掲示をしてもらっているものでございます。

続いて、ホームページであるとかSNSにつきましては、それぞれ継続して掲載する等を行っているものです。

あと、南部藩の市町村であるとか、東京とか仙台的三戸の方にふるさと納税を使った情報提供ということでございますが……ふるさと納税者への情報提供ということでございますが、ふるさと納税の寄附者を限定して、特別な観光案内というものは行ってはおりませんが、全ての方には三戸町のマップであるとか、そういうようなものを同封していただいております。また、町のホームページとかSNS等を御覧いただいているのかなというふうに感じてはございますが、特段その方に限って別なものをお入れするというものではなく、皆さん共通のものでご案内をしているものでございます。

あと、観光アプリにつきましては、11ぴきのねこエンジョイアプリの中で、町のホームページのほうのリンクを張りつけてご案内をしているところでございます。

あと、スタンプラリーでの商品券の配付ということでございますが、これは国史跡

の指定記念の際に行ったもので、スタンプラリーのポイントを全部クリアした方には商品券を配付いたしまして行った、それを商店で使えるように500円の商品券をお配りしたもので、これは史跡指定の記念の限定イベントでございましたので、継続というものはしてございません。使用期間の範囲内でお使いになれるものでございます。

また、来月実施のイベントにつきましても、同様のスタンプラリーで商品券のほうをクリアした方にプレゼントして、消費につなげたいというふうには考えてございます。

あと最後が、メニューであるとかお土産開発というところで、町長答弁がありましたので、私のほうからは補助金の交付というところでのお話をさせていただきますと、令和4年度に国の史跡の指定を記念して、特産品等の開発の補助金というものの事業を行いましたけれども、実績はございませんでした。現在は商品開発に係る部分の補助金交付というものは、商工業パワーアップ事業費補助金という中で特産品の開発等の経費も見れるように組んでいるものでございます。そちらのほうは、継続して補助金のほうを行って、交付して支援をしているということになります。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

結構前の答弁なので、変わっているところもあるかと思いますが、比較的とても的を射ている部分の答弁に関して、代表的な具体策としてこれをやりますということだったと思うので、その部分に関しては道の駅、産直に関して、イベントということだけではなくて、史跡を取ったのだよと、史跡指定なのですよと、城山公園に来てくださいみたいな、そういった部分の提示というのは必要なのではないかなというふうにも思います。

それから、町のSNSに関しては、スポット的なもので終わってしまう、イベントのときはそうかもしれないのですが、その部分に関しては教育委員会のほうだったりも携わっていくべきではないかなとも思います。

また、ふるさと納税への情報提供ということですが、観光案内のだったり、マップがというのも分かりますけれども、実際に、では史跡指定をした形のふるさと納税品があるのということです。実際に先ほど話にも出ましたが、飲食メニューやお土産の開発はゼロだということであるから、なかなかそういった部分につながっていかないのかなというふうに思います。その部分に関しては今後続けていって、新たなメニューだったり、特産品がやれるような仕組みづくりを、本来であれば町が主導権を握るということではなく、連携の中でそういったサポートをしていかなければならないのかなと思います。史跡指定されてもう2年半がたつ中で、1件もないというのはどうなのかなというふうに感じます。

意見交換の件でちょっとお伺いします。連携についての質問です。先ほど連携に関しては、5回、6回という話、年に5回から6回やっていますよというふうに前答弁もらったと話をしたと思います。それというのは、2年前のまちづくり推進課の答弁でした。今回教育委員会からも行っていますよということですが、その後、今保存活用計画をつくるに当たって、基本的にはイベントがあった際には情報交換をするということがあるかと思います。それとは違った形で、保存活用計画を策定するに当たって、それぞれが情報共有をしているというふうに私は認識しているのですが、その部分に関して、その部分に特化した形で連携や打合せがこの4年、5年あったかどうかをまちづくり推進課にお聞きしたいと思います。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

保存活用計画の策定に当たって、まちづくり推進課が主導してやるということはありません。

○11番（久慈 聡君）

保存活用計画をつくるのは教育委員会なので、その中において、保存活用計画は、ではまちづくり推進課は何も関係ない、その情報はまちづくり推進課は知らなくてもいいという形なのか。そうではなくて、本来であればこういった計画をつくっている、策定に当たっての、教育委員会からのある程度の報告があったり、情報共有をしているのであれば、この2年半活用計画をつくっているわけですから、その部分に関して情報共有がされたかどうかということがお聞きしたいのです。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

保存活用計画の策定に当たっての情報共有ということになりますけれども、保存活用計画の中での活用という部分については、特に重点を入れているところというのは、学校教育や社会教育での活用というところが中心にはなっておりますが、その中で活用の中で、まちづくり推進課、観光面というところでの連携が必要なものもやはりありますので、それは随時情報を共有しながら、ご相談しながらやっていますし、また保存活用計画の中には道路だとか崖だとか、様々そういった部分もありますので、建設部局とも情報を共有しながら計画を策定しているというものになります。

以上でございます。

○11番（久慈 聡君）

分かりました。

では、次の質問をいたします。令和4年3月、第192号の議会だよりの中で、商工会の皆さんと議会広報編集委員会による「国史跡三戸城跡を活かし中心街の活性化を」と題した特集があります。リピーターの仕組みのための情報も入っていると思います。飲食店やお土産販売所、食品の自動販売機の不足、通常のジュースの自動販売機の台数を増やしてもらいたい、冬や温故館の閉館時の案内だったり、御城印の販売所、城跡の歴史をメインとした公園の整備、一部でも発掘、石垣などの見える化、子供が楽しめるような体験型資料館、安全の観点から防犯カメラが必要である、桜をもっと植えたらどうだろうか、宿泊施設、アスレチック施設やロープウエー、遊歩道の整備を行ってウォーキングコースをつくってはどうか、案内板の設置や屋根つきの停留所が整備されればもっとよいのではないだろうか、多くのこういった、これです。こういった形で、見開きで1ページあります。抜粋したのがこれですけれども、城山公園に関わるのところだけ。ここで意見が述べられていました。

この件に関して、どんなアプローチが行われたのかなど。2年がたって、できないということも分かると思いますし、教育委員会では活用計画を策定する、策定しなければ何もできない。であれば、何もここで話をしたことのアクションが取られていないのではないかなと思いますし、逆に観光振興のためにまちづくり推進課がもっと活発的に動いているのであれば、この要件の中に、案件、要望の中に対して、何らかのアクションが行われているべきではないかなと思うのですけれども、その点についてお伺いしたいと思います。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

町といたしまして、国の史跡指定を受けまして、例えば看板の設置、公園の整備、施設の改修等、あと桜木の保護等、できることを行っております。今後も行っていきたいと思っております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

安全の観点から防犯カメラをつけるだったりとか、以前城山公園の一番上のところにあった飲食店もなくなりました。観光協会のところのはまだ残っている、トイレに関してもそうですし、こういった要望が出てきているのに関して、何か一つでもやられたものというのはあるのですか。アスレチックやロープウエー造るとか、そういうのはちょっと難しいのかなと思いますけれども、ただその中で少なくとも防犯カメラの設置や、もしくは自動販売機だったりとか、観光客が来たときに、先ほど城山に行っておなかすいて、御飯食べに行ったときに店がやっていなかったというような話もしましたが、観光に三戸の城山公園に来て何もやっていなかったというような状況にならないような仕組みづくりというのは、教育委員会ではなくて、観光を連携するべく、まちづくり推進課の仕事なのではないかなと思うのですが、そこについてどのようなお考えで、議会から出てきている国史跡の三戸城跡を生かすためのまちづくりの中心街の活性化というところから出ている、このものに対してアクションや考えがあったのか、行われたのか、そこをちょっともう一度お聞きしたいと思います。でも、やっていないならやっていないでもいいですし、できないのであればできないでも構いません。そこら辺がはっきり聞きたいだけです。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

町民からの意見に対してどの程度できているかということかと思いますが、できないものはできないというところではありますと、何か建物を建てるかということのはすぐには難しいというところで、ご要望があったとしても、そういうような意見があったということで周知というか、こちらのほうで把握をしているものでございますが、例えば自動販売機の設置につきましても、土台とか、そういうので掘削を伴うものがあれば、なかなか設置というのも難しいものもあります。その状況、状況もありますので、全てをやるということは難しいことではあります。また、ロープウエーであるとかということも同様でございます。

ただ、中には桜を植えてほしいとか、桜を守ってくださいということかと思いますが。それについては、これから補正のほうに計上いたしましてやろうとしていること、あと看板の設置であるとか、史跡指定を受けて公園内であるとか入り口、あと町内の案内看板等を設置したりということを行っているものでございます。できるところを行いまして、今後にも必要に応じて行っていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

もちろん建物を建てるだったり、何かをやるというのは、難しいというのは分かっています。ただ、その中で、先ほどから話をしていますけれども、打合せ会議だっただけが行われたのかということ。この要望が町民から上がってきています。この要望に関して話し合いが行われたのかどうか、それに対してまちづくり推進課のほうでどのようなアクションが起きて、例えば防犯カメラをつけるべきだ、では会議の中で、教育委員会ではそれはちょっと難しい、自動販売機を造りたい、それも難しい、掘削

があるから、そういう話合いが行われたかどうか、譲歩したかどうか、そういったところも含めて、きちんとした話合いができていくかどうかというところは私は問題点としているのです。教育委員会のほうで保存活用計画ができないと何もできない、分かります。でも、町民からのアクションに対して何も行っていないのではないかなど私は感じます、この状態だと。それであれば、会議をやっています、連携を取っています、何か歯車が合わないような感じがします。

質問の冒頭に私述べました。教育委員会は史跡としての保存、復元、まちづくり推進課は観光地として利便性の向上と、相反する方向に進んでいることから、そんなことのないような形の答弁がありますけれども、実際そうではないのではないですか。できることとできないことがある。町の方向性を明確にしていきたい、私はこれを繰り返し話をしてきました。町の活性化を目的とした話合いや議論が本当にされていたのかというふうに私は感じるのですけれども、連携は取れています、イベントをつくるときはいいです。でも、町の活性化のため、安全のため、城山公園に来る人たちの利便性を高めるため、安全のためにだったりとか、そういった部分のきちんとした話合いがされているのかなど、そういうところで私は疑問を持っているのです。私の考えが間違えているのかもしれませんが、でも私としてはそのように感じています。だからこそきちんとした連携、話合いが行われていると、もしくは縦の仕組みではないプロジェクトチームをつくって、本来すべきこと、こういった町民の声を引き上げてやっていかなければならない、そういうふうに感じます。

では、次の質問に移ります。今後についてです。教育委員会に確認します。構想を経て整備基本計画というふうになると思いますが、そのスケジュールだったり、先ほどちょっと話をされましたけれども、もう少し詳細教えていただきたい。復元に関してはどのように考えているのか、石垣の修復、復元に関してどのように考えているのか、また展示施設についてはどのように考えているのか、そのところお知らせください。

○史跡対策室長（金子 祐之君）

それでは、ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。

まず、整備基本計画のスケジュールについてでありますけれども、整備基本構想の策定期間につきましては、まずは保存活用計画が策定されてから以降ということになります。具体的な策定期間というのは、今のところは未定でございますけれども、保存活用計画で示された考え方を基に、順次各計画の策定を進めていくというふうになります。今のところは、令和7年度以降ということ念頭に予定をしているところでありますけれども、計画の策定におきましては、引き続き文化庁あるいは青森県、こちらの指導の下に進められるということになりますので、具体的なスケジュールについてはこれからの協議というふうになるかと思えます。

次に、復元に関しての考え方ということでもありますけれども、復元といいますのは当時の歴史の、当時の姿の再現を行うというのが復元ということになるかと思えますけれども、三戸城が南部家の本城の役目を終えてから、今日まで約400年が経過をしております。この間に、城跡内の遺構の多くは、様々な理由によりまして形状が大きく変わっているようなところもございます。このため、正確な復元というものを実現するためには、まずは埋もれている部分の発掘作業というものを改めて実施をいたしまして、遺構の本来の形、あるいは構造といったものの解析を進めるなど、復元のための基となる情報を集めるということがまずは必要であるというふうにご考えております。

続いて、石垣の修復についてでありますけれども、三戸城跡の中で現在石垣が築かれているところは、綱門跡、今綱門の建物が建っているところです。それから、大門跡、神社のところに入る電話ボックスがあるところです。それから、本丸の跡、イベント広場の地下のところ、穴を掘ったところです。それから、鍛冶屋門跡、城山公園の下り口のところにある石垣というふうになります。この計4か所というふうになっております。このうち、鍛冶屋門跡以外の石垣につきましては、もう半分以上が崩れて崩落しており、または転用によるということで、石をほかに動かしたりして欠損をしている状態になっております。比較的石垣が残っている鍛冶屋門跡の石垣につきましても、雨などの掘削によって地盤が大分弱くなっておりまして、将来的には崩落する可能性が指摘をされているところであります。

石垣を修復、復元するといった場合に、工程といたしまして、まず埋もれている石垣を全部発掘します。その上で、石垣の図面というものを作成する必要があります。現地に積まれています石を一つ一つコンディションチェックを行いまして、部材として使えるかどうかというチェックですね、こちらのほうをする必要があります。石垣カルテと呼ばれるのですが、カルテのような状態のものを作ることになります。その後、石材を一旦全て取り除いた上で、地盤を固めて強化した上で石を、石材を全て元の位置に戻しながらやっていく中で、使えない石材、あるいは不足している、なくなっている部分といったものは、ほかの石で補充する必要があるのですが、その補充の石も、できれば同じ産地の同じ石を使って積んでいくというのが望ましいというふうにされております。ですので、石垣を復元するといった場合に、時間もかかる、それから経費も大分大きいものとなるということになりますので、財源の確保、時間の確保というものが大きな課題になってくるのかなというふうに考えております。

最後の展示施設に関しましては、今史跡の三戸城跡には、町立の歴史民俗資料館が設置をされております。当面は、展示施設を含めた城跡の情報発信地ということで位置づけて活用をしていく計画というふうに考えております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

よく分かりました。なるべく保存活用計画、今パブリックコメントをやっていますけれども、それが終わり次第進めると思いますから、また情報提供をしていただきたいというふうに思います。

史跡三戸城跡保存活用計画の81ページに、活用の現状と課題があります。これは、まちづくり推進課では共有している内容かと思っておりますので、そこについて質問します。情報発信についての解説板の問題、それからホームページの発信方法について問題があります。ここについてのまちづくり推進課で協力できることというのはありますでしょうか。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

保存活用計画内にあります町の発信について、まちづくり推進課として協力できることがあるかというご質問かと思っております。まず、町の観光アプリがございます。「11ぴきのねこのまちさんのへ」エンジンイアプリですけれども、この中にはスタンプラリーという機能がございまして、現在町内の歴史を学ぶポイントをチェックポイントに設定をしております、ポイントを回りながら歴史も学べるコースというものをご紹介します。これが情報発信の方法の一つになるかと思っております。

また、課題といたしましては、そのアプリ内のリンク先というのがホームページに

飛ぶようになっているというところもございまして、史跡のほうに特化したような、例えば民俗資料館のほうにすぐ飛べるような、そういうような工夫というのにも必要になるかなと。その辺は、できることは行ってまいりたいと思います。情報発信につきましては、まちづくり推進課でもアプリであるとか、そういうものを使って協力のほうはしていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

この問題の中で、看板のところを私はチェックしていたのですがけれども、要はほかの言語での必要性もあるのではないかということが問題視されていました。その部分については、もう一度考えていただければなと思います。

同じく81ページから83ページの現状の課題です。周遊ルート、これに関して、登城ルートです。訪問者は、本丸まで車で来てから観光していく、この動線の問題があります。また、城歩きガイド人員不足、解説スキルの向上の課題、これは今教育委員会のほうで動いていると私も話は聞きました。管理施設の問題、旧トイレの倉庫だったりとか、観光協会の事務所の件だったりとか、これは探索する場所の道路の安全の問題、このようにまちづくり推進課に関しても関係深いものが載っていると思います。これに関してどのような検討をされていますか。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

今後も教育委員会と連携をしまして、必要に応じて協議等を重ねて、協力、連携して取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○11番（久慈 聡君）

ちょっと町長に聞こうと思っていたのですがけれども、時間もあれなので、ざっくり言うと、令和2年のときに、まちづくりの大きなテーマとしてやっていますよということを町長話をしていました。連携も取っていくということ。令和3年12月、史跡指定の公園計画に対して、先ほども話しましたがけれども、町の歴史のインフォメーションやそういったものをつくっていきながらやっていく。この大きなまちづくりのテーマとして、具体的な手法があって、観光協会、商工会、道の駅、産直広場、幅広く連携を取り、町全体で取り組む体制ということで話がされていたと思います。

この状況の中で、今一般質問させてもらいましたけれども、うまく連携が取れているのか。逆に、教育委員会で問題点があると、その問題点のところを共有している中で、体制がどういうふうになっているのかなというふうに感じていますし、町民の声や、それから教育委員会での問題点が解決されていないと、それも対処ができていないというような感じを私は今しています。史跡指定から継続をして行っている観光のための政策が何なのかというふうな思いがとてもあります。保存活用計画ができるまでの2年半、町の観光のための継続している事業とは何なのか。その事業の成果として、プロジェクトなり合同会議だったり、どんな活発な意見が出されたのか。そのために一番動くのはまちづくり推進課ではないのか。教育委員会と意見交換を行い、お互い譲歩したり、協力していくのが今回話を聞いて見えないというふうに感じています。

具体的な話でいうと、例えば温故館の事業と連携して事業を行ったり、観光協会や商工会などと連携して継続的な事業を行ったり、スポットではない継続的な事業を行

ったり、計画を立てるのはまちづくり推進課なのではないかなと私は考えています。今後整備基本計画ができるまでの間、もしくは保存活用計画、今現在やっている最中ですが、まちづくり推進課として、町長として、今回一般質問した私の思いについてどういうふうなお考えであるのかお聞きしたいと思います。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、久慈議員の質問にお答えを申し上げます。

今回久慈議員のほうからは、大変幅広く城山公園、史跡の活用についていろんなご指摘をいただいております。三戸城跡城山公園は、これまでも南部氏の居城となり、そういった歴史的側面からの観光、そしてまた近代では野球場もあったりとか、いろんなイベント等でも観光も含めて活用されてきた、そういった側面がございます。そしてまた、歴史的な側面からいきますと、温故館、資料館、そして遺構の見学、そういったどちらかといえば静的な観光資源というふうなものになると思います。これを静的と言いますと、先ほどもお話をしましたイベントでの集客というのは動的な観光資源というふうに考えておりました、近隣市町村であるとか、できるだけ近場からの来客が主になっていると思っております。

これまでもるる答弁をさせていただいておりますが、町として今やらなければいけないのは、保存計画、そしてイベント集客等をやっておりますが、史跡指定となったこと、そしてまた南部氏の歴史、町の歴史、そして町内観光名所との連携などが、これを一体的にPRしていくことがまず方向性とするのが大事なところだというふうに思っております。しかし、やり方の部分もあるかもしれませんが、アピールの度合いというところで考えると、まだもう少し工夫の仕方はあるのではないのかなというふうに感じております。

また、その町としてのまず戦略という、観光面の戦略なのですが、やはり三戸町や近隣の中では、三戸の城山公園は三戸南部の居城ということで、そういった認識はあります。だけれども、もっと全国の多くの方々にも知ってもらうためには、やはりしっかり計画を、文化庁の指導や県の指導の下、計画をしっかりとつくって、そして保存活用から今度整備基本計画という流れで、まずしっかり計画を練り上げていこうと。その上で、こういった歴史やお城や、そういう関心が多い様々なネットワークがございます。例えば三戸町であれば、会津藩の会津若松とのゆかりの地に現在は指定になっておりますので、そういった中で会津のつながり、あるいは三戸のお城に手をかけたであろう蒲生氏郷のネットワークであったりとか、そうならば今度はまたいろんな面で、実は明治維新だったり、いろんなところとのつながりというのが出てきます。そういったところにしっかりと届けて、三戸の城山公園はこうなのだということを言うためには、やはりしっかりと計画、そういったものが必要になってくると思っております。

そしてまた、大事なことは、いろんな取組はもちろん議員おっしゃるようになっていく必要はあると思いますが、町を知ってもらうこと、そして好きになってもらうこと、それがリピーターになり、またフォロワーになったりしてくれる、大事なことだと思っております。もしかすると、そういった歴史好きが高じて移住先の一つとなるような、そういったきっかけにもなるのではないかなというふうに考えております。

るるお話を申し上げましたが、まずしっかりと定めるところは定めて、そして今できることをしっかりと選択しながらやっていくことが肝要だというふうに考えております。

○11番（久慈 聡君）

私は、城山公園の件に関して、安全の部分も含めて、それから連携についていいものをつくってもらいたいという話をしてきました。以前、MC I の件も話をしましたし、安全の面だったりとか、それからそういった部分も含めて話をさせてもらっています。

最後の質問をします。城山公園に関して、まちづくり推進課は年間でスポットイベントを中心とした形で事業を行っている、教育委員会では史跡保存を基にした考えを基に、お互いの課は事業を進めてきていると、その部分に対して何ら問題はないと思いますし、すばらしいというふうに私は思っています。ただ、私が何回も質問しているのは連携なのです。5年後、10年後のビジョンと一緒に考えていただきたい、そういうふうに考えているからです。私も、教育委員会の保存計画とかの知識がない頃は、城山公園の上に、本丸の上に温泉を持ってきて、そこで殿様風呂をやればいいのではないかなど、そういう話をさせてもらった時代もありました。そういった形でやっている日本の場所もありますから。では、その中でなかなかできないということも分かります。だからこそ、5年後、10年後のビジョンと一緒に考えましょうよと、私も三戸町の城山公園は宝であると考えているからです。だからこそ、平成から何回も質問しているのです。

しかし、どうなのでしょう。城山公園を訪れる観光客は、劇的に増えたのでしょうか。以前のような町内の方々の憩いの場として整備され、にぎやかになったのでしょうか。町外の目線で見ると、来てもらってリピーターとなっただけの資源としては、飲食、観光、宿泊施設が必要であり、滞在期間を多くするためには有効なサービスの提供が必要であるというふうに考えています。これは、職員の皆さんもそうだろうと、そう思っていると思います。それができないのはなぜでしょうか。お互いの業務の内容を、きちんとすべきことをきちんとしている。ただ、相手の課の中のところに文句を言わない、打合せの中で、自分の中での必要な部分をもっとお互いに言い合わなければならない、そういった考えをやるためには、どうしてもプロジェクトチームをつくる必要性があるのではないだろうかというふうに思います。役場だけではなく、やっていくべきなのではないかなど思っているのです。

プロジェクトチームが実施されず、まちづくり推進課の事業と教育委員会の事業と、ここに隙間があるというふうに思います。教育委員会の問題がまちづくり推進課で対策ができていない、町民の声が上がっているのだけれども、それに対してのアクションができない、それは教育委員会の保存活用計画ができてからでないとい何もできない、それはそんなことはないです。やるべきことは、並行でやるべきだと私は思う。そういう形で、私は以前から何回も話をして質問させてもらっています。お互いの隙間の部分、この隙間の部分ができているから、一体感を持った事業というのがないのです。私はそう感じています。その不足が問題だからこそ、何回もこのままでいいのかという思いから私は質問しています。

町長の答弁にもありました、城山は宝だと。何度も私も話をしています。もう一度プロジェクトチームをつくるということを考えていただけないでしょうか。行政だけではなく、民間や共同体も含めていいと思っています。今のままでは、2年後、3年後、変わらないのではないかなどいうふうに思います。最後、希望を込めて町長の答弁を求めます。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、ご答弁を申し上げます。

プロジェクトチームについてでございますが、まず現在のところは教育委員会、そしてまちづくり推進課が中心となって意見交換、また連携をしながら事業を回していくことで十分というふうに考えております。ただ、今後の保存活用計画が定まり、そして基本構想というふうに行く流れの中では、こういった形のチームが適切かどうかというのは、今後の検討課題だとは思いますが、多くの意見を吸い上げながら、地域が一体となって動ける、そういう形のものは目指していきたいというふうに考えております。

○11番（久慈 聡君）

最後と言いましたけれども、もう一回質問します。

十分ではないから今質問しています。今の状態で大丈夫だったら質問しないと私は思いますけれども、隙間があるのではないかとっているのです。その部分に関して、もう少し考えていただきたいというふうに思いますけれども、その部分に関してはどうでしょうか。もしそのプロジェクトチームつくらないのであれば、ほかの民間の共同体だったらそういったものも含めて、もしくは議員も含めてでもいいです。打合せをするような機会だったりとか、そういったものを定期的にできないか、もう一度聞きます。

○町長（松尾 和彦君）

私といたしましては、そういった意味合いも含めてお答えをしたつもりでございますけれども、過去に遡っての必要性というところは、私の立場からは申し述べることはできません。まず、今後の進め方の中では、そういった取組は必要になってくると、そのように考えております。

○11番（久慈 聡君）

では、取組を行っていただきたいと思えます。

私は、三戸町の宝である城山の史跡を観光資源として、観光者との連携の中で、町民に三戸町で暮らしてよかったと、幸せだなと思っていただけるようなまちづくりを次世代につなげていかなければならないという思いから質問させていただいております。執行部の皆様におかれましては、これから先の三戸町のためにどうか一緒に考えて、実行していただきますようお願いして、私の一般質問を終わりたいと思えます。ありがとうございました。

○議長（竹原 義人君）

午後1時15分再開予定をもって休憩します。

(午前 11時41分)

休 憩

(午後 1時15分)

<3番 柳 圭太議員>

1. 合葬墓の整備について

○議長（竹原 義人君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

3番、柳零圭太議員。

○3番（柳零 圭太君）

議長のお許しをいただきまして、第519回三戸町議会定例会の私の一般質問をさせていただきます。町長をはじめ担当課の皆様におかれましては、簡潔かつ明瞭な答弁をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、一般質問をさせていただきます。質問項目は、1項目でございます。合葬墓の整備についてでございます。現在核家族化や生活環境の変化に伴い、仏式、神式、諸教の宗教法人が管理する墓地に墓を所有していても、管理する家族が近くにいないことを理由に、管理できていない墓が多数あると聞いております。近年では、永代供養といった手法も先祖供養、また管理方法の一つではありますが、万民誰しもが必ずしも選ぶことのできる選択肢とは言えないと思っております。

これまで、寺院などの境内や地区管理のみなし墓地などに埋葬される焼骨は、宗教的儀礼の一部や慣習に従い管理されており、近隣に墓守をする方がいて現在に至っていると思われまます。しかし、近年の家庭環境の変化に伴い、子弟が遠隔地に住んでいるなどの理由や進学に伴う移動先で就職し、家庭を築く場合もあり、墓地の管理をできない方が年々増えてきているように思います。今後も少子高齢化がさらに進み、当町においては三戸地区環境整備事務組合で事業や運営を共に進めている田子町、南部町の2町とのより連携を深めていくことは重要であると考えます。

また、今後の地域住民の行政サービス、公共の福祉の充実、移住、定住対策の一つと考えること、また三戸町の新しい魅力にもつながっていくと考えられることから、自治体主導での無宗教形式の合葬墓が必要と考えることから、町側の見解を伺います。よろしくお願いいたします。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、柳零議員のご質問にご答弁申し上げます。

合葬墓の整備についてであります。全国では平成17年に初めて死亡者数が出生数を上回り、平成19年以降はその差が拡大しているなど、多死社会は今後も進んでいくことが見込まれており、特に人口流入が多い大都市部などでは、墓地が不足することなどが問題として取り上げられてきております。

他方で、人口が減少する地方では、墓を継承する人がいない、もしくは墓を管理する方が都市部に転出し、管理が行き届かないなどの問題が顕著化するなどしているところであり、昨年9月に総務省がまとめた墓地行政に関する調査結果では、公営墓地内で墓を管理する縁故者の把握が困難となっている事例が増加していることや無縁墳墓が増加しているが、無縁改葬が進んでいないこと、十分な管理がされず荒廃していくおそれがあることなどが報告されております。

今回議員からのご質問は、墓の管理面から公営での合葬墓の整備ができないかということですが、現在寺社にお墓がある方で近くに墓を管理する方がいない、墓じまいを検討しているなどといった場合には、ふだんから関わりのある寺社などにご相談いただくことで、管理に対する不安の解消にもつながるものと考えております。

また、特定の宗教や宗派を信仰していない場合の対応につきましては、合葬墓の整備もその一つではありますが、行政としてどういった施策が最善であるか、今後検討

していかなければならないと認識しております。

自治体主導での無宗教式の合葬墓の整備につきましては、政教分離の原則を踏まえつつ、まずは町内寺社の墓地や集落の共同墓地の現状を把握し、将来に向けた人口予測や財政状況、総務省の調査結果などを考慮しながら研究してまいりたいと考えているところであります。

○3番（柳 圭太君）

それでは、ただいまいただきました答弁につきまして、確認の意味も込めまして、または町内の墓地の管理であったり、その把握状況につきまして、担当課、また町長に再質問のほうをさせていただきます。

当町では、みなし墓地、また_____と言ったりもしますが、その管理については地域によっても様々異なったりはしますが、その地域の皆様の適正な管理によって保たれているというふうには私は認識しております。ただ、冒頭でも述べましたとおり、加速していく高齢化によって、その維持管理等ということは年々難しくなっていると思われております。

先ほど町長は、関わりのある寺社へご相談というふうな答弁でございましたが、全ての方が関わりのある寺社を持っているわけではございません。そうした方以外のご相談、それ以外にも様々なご相談が寄せられていると思いますが、そうした場合の担当課の相談、または対応についてお聞かせいただきたいと思っております。

○住民福祉課長（貝守 世光君）

ただいまの質問にお答えをいたします。

お墓の維持管理や墓じまいなどの相談の対応ということでございますが、まず集落の共同墓地につきましても、それぞれのお墓で関わりがあるお寺や神社というものは多いと思っております。ですので、まず先ほど町長答弁にもありましたように、関わりのあるお寺や神社に相談をしていただきたいと思いますと思っております。

まず、特定の宗派や宗教を信仰していない場合につきましては、どういった内容の相談になるか不明なところもございますが、しっかりと相談に乗りたいなというふうに思います。また、改葬手続など、法律的な案件であれば、その内容や手続について丁寧に説明をしてみたいと考えております。

○3番（柳 圭太君）

ありがとうございます。改葬手続等となれば、行政でタッチできる部分、そしてまたそれ以外の部分ということがありますので、町内の方に分かりやすいような説明を心がけていただくようお願いを申し上げます。

また、これまでもそうした説明の中で、地域や近隣の方の、近隣町村の状況把握であったりとか、その情報を基に火葬場のよりよい運営等々のために行政として努めているとは思いますが、ただ根拠となるような情報は、地域住民の意見交換であったりとか、関連機関とのやり取りというのものがあると思います。そうしたやり取りであったり意見交換の機会というのは、どのようにして行われているのかお尋ねいたします。

○住民福祉課長（貝守 世光君）

三戸地区の環境整備事務組合との情報共有ということでお答えをさせていただきますが、まず三戸区環境整備事務組合ではごみ処理、し尿処理、葬祭場の運営を業務としております。そういった事案に関することにつきましては、構成町の担当者会議や

担当課長会議、また施設整備事業検討委員会等で情報を共有して事業の検討を行い、事業を実施している状況でございます。

○3番（柳 圭太君）

では、それらの様々な検討委員会の件について、もう一点だけ質問をさせていただきます。

それらの火葬場であったりとか、衛生施設等々に関わる検討委員会においても、当町で担当課であったり、出席されていると思うのですが、今後よりよい施設運営であったり活用をする際に、当町から三戸地区環境整備事務組合に意見を提言する場合、どのような可能性があるのか、提案することが可能なかどうか、その点について答弁をお願いいたします。

○住民福祉課長（貝守 世光君）

合葬墓の整備について、地区の環境整備事務組合提案ができないかということでございますが、まず組合では先ほど申し上げた事業を担当しておりますので、例えば合葬墓の整備を組合に対して提案するということはなかなか難しいかもしれません。ただ、前段である意見交換、田子町、南部町さんおりますので、意見交換という形ではできるかと思いますが、なかなか三戸町から環境整備事務組合に合葬墓の整備を提案するという事は、難しいかと考えております。

○3番（柳 圭太君）

まず、参加している担当課としてのご意見ということでございます。まず、三戸町独自として提案するということがなかなか難しいというふうな答弁でございましたので、ではこれらを踏まえて、ちょっと町長と意見交換のほうをさせていただきたいかなと思っております。まず、端的に聞きます。合葬墓というもの、設置することが可能なかどうか、こちらについてご答弁をお願いいたします。

○町長（松尾 和彦君）

先ほどもご答弁申し上げましたけれども、寺社等の意向など、情報収集に努めてまいりたいというのが現在の町としての考えでございます。合葬墓の整備の可能性につきましては、その後の判断になるものと考えております。

○3番（柳 圭太君）

では、寺社等の整備の可能性というようなことであれば、様々な調査研究であったりとか、情報収集する必要性があるというふうに認識してよろしいでしょうか。であれば、その調査研究の必要性が現段階でどの程度必要なかどうかご答弁願います。

○町長（松尾 和彦君）

まず、調査研究の必要性についてどの程度という、意義はどの程度あるのかということなのですが、これは先ほど私の答弁の中でもお答えを申し上げましたが、総務省での調査結果というものも参考にする必要があると思っておりますし、また町内の中での情報収集というのがやはり大事なのだというふうに思っています。私の耳に届くところでは、最近では永代供養であったり、これはあるお寺の中の話ですけれども、もう永代供養をされる方が増えてきているとか、そういう話はよく聞きます。そしてまた、テレビのニュースなんかでも、お位牌とお骨をビルとか、何か貸しビルのようなとこ

ろに集めて管理をされている、そういった民間事業者もあるやに聞いております。そのように、今お墓というものについての考え方というのが社会全体で変わってきていることがあろうと思いますので、そういったニーズが実際にどれぐらいあるのかということ、実際事業を進めるに当たっては、まず前提としてその把握に努めていかなければならないと、そのように考えております。

○3番（柳 圭太君）

そのようなお考えがあるのであれば、町独自でも調査なり、または検討する必要、検討してもよいのではないかなと私は思うのですが、必ずしも合葬墓だけではなくて、今町長がおっしゃったようなご遺骨を安置するようなアパートのような、マンションのような形というような、要は収蔵庫であったり納骨堂というような形も一つ選択肢としてはあると思いますが、それについて今後の墓事情については、維持管理の問題であったり、無宗教の方々、縁故者の方々、または個人のご遺骨の安置の場所の選択肢を増やすため、またより暮らしやすいまちづくりにするというのが今回の私の質問の趣旨でございます。そうした町独自で検討する機会を今後設けていただけないかなという点で、もう一度再答弁のほうをお願いいたします。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、ご答弁申し上げます。

総務省がまとめた墓地行政に関する調査結果というのものもあるのですが、三戸町においても墓地の台帳というのが、かなり以前ですけれども、作られたという話を聞いております。そういったものが大分年数も経過しておりますので、そういったものの整備をしながら、情報収集に努めてまいりたいと考えております。

○3番（柳 圭太君）

今墓地の台帳というふうなお話があったのですけれども、ちなみにそちらを管理するというふうなことになるならば、管轄は住民福祉課になるということでしょうか。また、それは何年かに1回、それとも総務省から自治体のほうに改めなさいというふうな通達があった際に、再度更新するような流れというふうに認識してよろしいですか。ちょっとその点を確認の意味でお聞かせいただいてもよろしいでしょうか。

○住民福祉課長（貝守 世光君）

住民福祉課で管理している墓地台帳につきましては、墓地を整備した時点で登録をされるということになっております。ただ、何十年も前の台帳でございますので、現在集落で誰がお墓を管理しているかというところがちょっと分からない部分もございます。今回の質問を機にそういったことが分かりましたので、まずは現状を把握するというところで進めてまいりたいと思います。

○3番（柳 圭太君）

ぜひよろしく願いいたします。

また町長のほうにお聞きいたします。今後も墓事情の問題というのが、担当職員の皆さんにとっては今小さな一声になるのかもしれませんが、私としては少子高齢化対策、それ以外にも様々な宗教を信仰される方の環境を整備することということが非常に大事なことだと思っております。また、その施設を設置していくことということが、三戸町だけではなくて、関わる田子町、南部町、3町にとって重要になってくると思

います。

それだけではなくて、墓事情の政策というわけではないのですけれども、今後の住民生活の安定であったりとか、移住、定住対策、または町政発展のための具体的な考えがあるのであれば、町長からひとつお聞かせいただきたいと思っております。

○町長（松尾 和彦君）

現在のところ具体的な考えというのは、これは町としては持ち合わせてございませんが、先ほども申しましたように、社会の状況がいろいろ変わってきておまして、墓を持たない、そういった方々も最近は出ているようでございます。そういった傾向が三戸町の中にもどれぐらいあるのか、あるいは実際にお墓の管理という部分で、宗教にもよらない、これは非常に言葉の使い方には注意をしなければならないのですが、あくまで宗教に関わる部分については、町としては何もできないということにはなりますが、そういった中でのお墓の管理というところには、これも住民サービスの一つであると思っておりますので、まず調査研究をしてみたいというふうに考えております。

○3番（柳 隼 圭太君）

何度もすみません、同じようなことばかり聞いてしまって。再三お墓事情、町長も政教分離の原則というふうにおっしゃっていたとおり、確かに法に宗教が関与できないように、また宗教にもほぼ政治が関与できないという部分ではあります。

このお墓事情のことをご質問したのは、今故人の見送り方というのも、町長ご存じのとおり新型コロナウイルスによって、見送り方、見送る形式というものが大変変わってきたように私は思っております。ただ、この先10年、20年になって、今後お墓事情というのももしかすれば変わってくるかもしれません。そうなったときに、今寺院と葬儀者とでお墓事情というものであったり、地域の方が管理している、ばらばらな状態になっていると私は感じております。そこを行政と寺院と町民と一体となって、連携してある程度管理していく必要性もあるのかなというふうに感じた部分ではあります。

今後もお墓事情ということが各自治体にとって新しい課題となって、解決していかなければならないと思っております。だからこそとって、合葬墓を整備してほしいというわけではございませんが、ただ個人のご供養の選択肢を1つ増やしてあげること、今後移住、定住対策にはなるとは思いませんが、ただ町に住む、暮らしやすいまちづくりの一つにはなるとは思っております。

合葬墓の設立ということを改めて強く要望する次第でございます。町長から何かありましたら、再度ご答弁願いたいと思っておりますが、もしないのであれば、これで私の一般質問は終了でございます。

<1番 五十嵐 淳議員>

1. 次世代への教育・人材育成の取り組みについて

○議長（竹原 義人君）

一般質問を続けます。

1番、五十嵐議員。

○1番（五十嵐 淳君）

それでは、私のほうから一般質問に入らせていただきます。

まずは、本題に入る前に、今回の質問に至った経緯を簡単にお話しさせていただきます。517回の6月の定例会後に、6月下旬、仕事のほうで青森県産ナガイモ加工品の売り込みとして、日本企業が主催するタイの商談会に参加してきました。その商談会で、すごく驚き、感嘆した出来事がありました。その内容というのは、通訳に関することです。商談会に参加した事業者というのは、日本企業が主なのですが、約200事業者、その日本事業者の通訳に当たられたタイの現地人の方の200余名が、全て日本語専攻をしている大学生であったということが非常に、先ほど申し上げた私の感想、驚き、感嘆した内容でございます。

通訳を務めた大学生の日本語レベルというのは、最初に聞いたときには、日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できると言われる、いわゆる検定でいうとN3と言われるレベルなのですが、ビジネス的な会話をするには少しレベルが足りないと言われているような方々だったので、実際に商談会の2日目には通訳の方が1人で商談ができるようなレベルまで達していました。その成長速度をすごいなと思って、何か理由があるのかなと思い、本人に話を聞いてみますと、その理由はやっぱり本人たちの様々な環境で身につけた動機や、あとは意識にあると感じました。

いろいろ調べてみたのですが、話を聞く中も含め、単にイメージとしては日本語を覚えるということではなくて、日本語を含めた日本の文化というものを学ぶというようなイメージを持たれているのだなと思いました。このような動機、意識というのを私なりに調べてみると、遡りながら調べてみると、本人たちの住む地域だったり学校が描く在り方につながっているのではないかなと推察することができました。その流れもありまして、今回三戸町の次世代への教育・人材育成の取組について考えを伺いたいと思い、一般質問にさせていただきました。

それでは、本題に入ります。三戸町に限らず、全国的に少子化、人口減少という大きな課題を抱えている現在において、地域の存続には課題に即応した次世代への教育・人材育成は必要不可欠と考えます。平成31年度に実施した文部科学省の少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業などの具体的教育事業の地域支援、令和5年の教育未来創造会議での人材育成に係る未来を支える人材像の提言内容など、国も次世代への教育・人材育成、言葉を変えると未来への投資を重要視しているように感じます。

このことから、次世代への教育・人材育成への取組は、三戸町の将来的な存続に関わる重要な要素であると考え、以下3点ご質問します。

1、町の次世代への教育・人材育成についてのビジョン、未来像、目指すゴールについて。

2、そのビジョンを掲げた背景、現時点での次世代への教育・人材育成に関する課題について。

3、ビジョンを達成するために描いている、または予定している短期、中長期視点での具体的メニューについて。

以上、ご答弁をお願いします。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、五十嵐議員の質問にお答え申し上げます。

まずは、町長答弁として、私の部分をご答弁申し上げます。当町では、これまで将来を担う人材の育成を重点課題と位置づけ、昭和44年に制定した町民憲章に「子どもがしあわせになる教育をだいにする教育の町」を掲げ、まちづくりは教育からのスローガンの下、教育振興に力を傾け、多くの地域を担う人材を輩出してきました。また、近年においては、県内でいち早く小中一貫教育を導入し、小学校1年生からの英語科の導入や、ふるさとに誇りを持ち、次代を担う児童生徒の育成を狙いとする町独自教科、立志科の創設などの施策を講じてまいりました。

今後におきましても、人口減少の中、町を維持、存続していくためには、変化の激しいこれからの時代を生き抜いていく力を身につけるための教育・人材育成が最も重要な課題の一つと捉えておりますので、引き続き教育の町三戸の振興のため取り組んでまいりたいと考えております。

○教育長（慶長 隆光君）

次世代への教育・人材育成への取組について、3点のご質問にご答弁申し上げます。

1点目の町の次世代への教育・人材育成についてのビジョンについてであります。教育委員会では5年間を計画期間とする三戸町教育大綱と、毎年度作成する三戸町教育基本方針の2つの計画と方針を定めております。第5次三戸町総合振興計画と同様の計画を掲げている教育大綱は、令和2年度から6年度までを計画期間として、「歴史を知り、文化を紡ぎ、生きる力を育むまち」を基本方針に定め、学校教育、社会教育、文化・芸術に14の施策の実現を目指しております。

また、教育基本方針は、学校教育、社会教育それぞれに重点事項を規定しており、令和6年度基本方針では「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、夢や志の実現に向けた、知・徳・体を育む小中一貫教育の推進」を方針としております。

教育大綱、教育方針ともに共通しているのは、新しい時代を主体的に生きていく力の育成であり、子供たちが将来社会の中でたくましく生きている姿が未来像であり、目指すゴールであると考えております。

2点目のビジョンを掲げた背景についてであります。教育においては、正義感や公正さを重んじる心、他人と協調し思いやる心、自然を愛する心など、社会が変化しようとも時代を超えて変わらない価値のあるもの、不易なものがございます。そういった不易なものに加え、生成AIをはじめとする人工知能の発展、ビッグデータの充実、IoTの導入など、第4次産業革命の進展やグローバル化による変化などを踏まえ、教育大綱や教育基本方針を策定しております。

次に、現時点での次世代への教育・人材育成に関する課題につきましては、子供たちの成長に寄り添う屋台骨である教員の働き方改革が挙げられます。現在の教員は、授業のほかに事務作業や保護者対応など、業務が増え続けている現状にあり、教員の余白づくりが急務であります。

3点目のビジョンを達成するために描いている、予定している短期、中長期視点での具体的メニューについてであります。短期的には今年度、教員の働き方改革推進のため、事務負担軽減のための統合型校務支援システムの導入や保護者との連絡ツールの導入を予定しているほか、英語教育推進に向けて、学校生活において積極的に英会話を行う取組であるイングリッシュデーを1学期から実施しております。

また、中長期視点では、小学生が大人になる2040年の世界で求められる力を考え、個別最適化のためのAIドリルやAIを活用した探求学習などの学校DXの推進、昨年度設置したコミュニティスクールの推進のための地域学校協働本部の設置や、幼小

中高の連携促進に向けた体制整備などを検討しているところであります。

○1番（五十嵐 淳君）

町長、教育長からご答弁いただきました。ご答弁いただいた内容について再質問させていただきます。

まず1点目、町の次世代への教育・人材育成のビジョンについてお答えいただいているのですけれども、まずは教育大綱であったり基本方針の中からご答弁いただいたり、町長のほうからも教育の町三戸ということでお話しはいただいていたのですけれども、いわゆるビジョンとして、未来像といたしますか、目指すゴールといたしますか、そういったものとして掲げた場合に、今挙げていただいた教育の町三戸ですとか、新しい時代を主体的に生きるというような言葉というのは、端的に今の児童生徒だったり、親世代に響くといえますか、未来を想像できるような内容なのかどうかというところとしてどうお考えなのかお聞きしたいです。

○町長（松尾 和彦君）

では、私のほうからは、答えられる範囲の中でご答弁を申し上げたいと思います。

三戸町が目指す教育の町、それが保護者、また子供たちにどのように伝わっているかというところがございます。これにつきましては、まず1つはアンケートも取っていることと思いますが、私たちが以前から、これはもう大分長い時代になると思いますが、三戸町が教育の町と言われたのは幕末、その時代からの話になります。そういうただ昔の話をして、これはしようがないなと思うのですけれども、そういった底流の中で三戸町は教育を大変大事にしてきた。そして、教育を大事にしてきたという中には、三戸町の佐藤義典奨学金であったり、岩井奨学金であったり高坂奨学金であったり、やはり子供たちの教育には当然お金がかかると。そういった部分には、民間の方々からの支援もあり、他の町よりも、これ直接比較したことは私はありませんが、かなり充実したそういう支援体制であるということ、そして学校の設備もこれも非常に大事です。今小中一貫三戸学園、そして斗川小学校、そして閉校はいたしました。杉沢小中学校につきましても、三戸町非常に多くの財源をそれに充てて、子供たちの成長のためにしっかり努力をしてきたと思っております。

そして、学校だけではなくて、例えば町民体育館であったり、アップルドームであったり、松原公園であったり、町の中に教育に関わる施設というものが、これ図書館も含めてなののですけれども、図書館の設備がしっかりしていない自治体の中にはあります。そういった非常に総合的な中で、三戸町は教育の町ということをしかりうたっているわけがございます。

そういう話の中で、子供たちや保護者にどういうふうにこれを伝えていくかとなれば、それは様々な指標というのがやはり必要になってくるのだと思います。総額でありますと、予算の総額ということになりますと、これは大きな自治体には、人数の多いところには、それはもう比較になりません。人口のある程度同じ自治体の中での比較というのもあるでしょうし、また子供1人当たりという物の見方もあるのだと思います。まずいずれにしても、そういった評価の中で、三戸町がどのように、どれだけ教育に対して力を入れていっているのだということが、これが本当にしみ渡るように、本来は伝わっていくべきなのではないかなというふうを考えているところでございます。

まず、議員からも、教育の次世代への教育・人材育成の取組というテーマで今回質問をいただいておりますが、三戸町がこれから生きていく道は、やはり教育を大事に

して、そこで人材育成にしっかりと取り組んでいくことが、三戸町としてこれからも発展していくための大きなキーワードになるというふうに、そのように考えております。

○教育長（慶長 隆光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたしたいと思えます。

先ほど、ビジョンを申し上げましたが、そのビジョンが保護者等に本当に伝わっているのか、分かっているのかというふうなご質問の内容だったかと思えますが、やはりどうしても教育については、先ほど申し上げたように子供たちが生涯にわたって幸せで、生きる力を持って成長していく、生きていくということがやっぱり究極の目標であると考えております。具体的なビジョンと申しますか、学校において育てる姿は、学校の教育目標において示しておりますので、それが小さな形ではありますが、ビジョンの一つではないかなと考えております。

以上です。

○1番（五十嵐 淳君）

今、お答えいただいた内容で、まずは町長のほうからお答えいただいた内容を基にちょっと再度質問させていただきますが、いわゆる過去に遡って三戸町は教育の町であるというところは、私自身も調べたり、いろいろ先人の先輩方の話を聞く限り、すごくその実感はしております。ただ、これからというところとか、今という段階で、実際に今までのイメージ、教育の町というイメージというのはすごく出来上がっていると思うのですけれども、現時点でアップデートされているのかというところがちょっと私自身はあまり感じられないところがあり、ぜひアップデートというところを意識していただきたいなというふうに感じました。

このまま少子化進んでいくと、端的にも子供がどんどん少なくなる、親世代もここよりもほかの地域で子育てしたほうがいいのかというような考えに移っていくと、三戸町自体が、いわゆる町自体が中年以上が、私たち世代しか支える人がいなくなるというような、将来的な老老介護状態になってしまうと思えますので、まずは子供たち、もしくは子供たちを育てる世帯が、親世帯がこの町で子供を育てたいとか、こういう考えであればぜひ子供たちをこの町でというふうに思ってもらわなければいけないと思えます。そういった意味で、先ほどちょっと申し上げた今後のアップデートという部分、これが今後のビジョンというところにもつながっていくと思うのですけれども、改めてそういったところでお考えがあればお聞かせいただきたいと思えます。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

三戸町のほうで子育てをしたいと思うような教育についてのアップデートというお話でございましたけれども、町長のほうからも申し上げましたとおり、教育の町三戸ということでこれまでも頑張ってまいりましたし、特に小中一貫教育につきましても、三戸町の人口レベルの自治体ではなかなか実施することが難しいというような取組を教育委員会、町、学校一体となって進めて、我々は教育の町なのだということでこれまでもアップデートしてきたというところでもあります。小中一貫教育ばかりではなくて、常に新しいもの、変化を入れながらやっているということでございます。昨年度、今年度につきましても、先生方に集まっていたきながら、また改めて小中一貫教育を見直して、次の世代へ、次の時代へ進んでいこうということで進めております。

ので、アップデートというものは常に繰り返しながら、将来に向かって進んでいくということでございます。

以上でございます。

○1番（五十嵐 淳君）

それでは、ちょっと2点目のビジョンを掲げた背景、現時点での課題等についてというところにも係る質問を再度といいますか、質問をさせていただきたいと思うのですが、ただいまアップデートというところに対しては意識されていて、実際にアップデートということはできている、できているというか、そういったところは意識しているというようなお話がありました。そこで、では具体的な指標の、今定性的なお話でしたので、ちょっと定量的なご質問をさせていただきたいのですが、実際に三戸町が小中一貫を導入した背景の中に、少子化による児童生徒数の減少というものがあつたかと思いますが、こちら減少の数というのは割合としては鈍化しているのでしょうか。それとも、変わらず右肩下がりなのか、それとも加速しているのか、そういったところを教えていただきたいのが1点目になります。まずは、そちらお願いいたします。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

児童生徒数の推移ということでございますが、まず平成10年のちょっとお話をしますと、平成10年は小学校、中学校合わせて1,302名おりました。そこから10年後、平成20年、954人ということで、小学校でいうと30%、中学校は20%というような減少がありました。その後、令和6年、今年度については484人といったところになっていまして、平成10年から比較すると小学校で65%、さらに中学校で見ると57%減というような急速な減少ということになっております。

今後の見込みなのですが、現在の484人から現在推計できるのが6年後になります。令和12年が337名という推計が出ております。6年間で147名といったところで、1年間の推移で見ると20から30といったところになってくるといことになります。これまで40人、50人とかといったレベルで減ってまいりましたが、減少の数については鈍化してくるといふふうに見ております。

以上でございます。

○1番（五十嵐 淳君）

では、2点目の指標のご質問をさせていただきます。

先ほどのお話は、事前に教育委員会のほうからもお出しされているような資料からも、ちょっと私のほうでも確認させていただいたのですけれども、次は私のほうから執行部側に共有させていただいている資料を基にご質問させていただきます。簡単に言うと、青森県内全市町村の教育費についてちょっとお調べしました。令和2年度の実績になるのですけれども、根拠資料として総務省の統計ダッシュボードと青森県の市町村課の各市町村の予算の数字をちょっと拾って、ランキング形式で出させていただきました。最初に町長の答弁にもありましたように、教育費という、金額自体でいうと青森市や八戸市など、都心部の予算、大きいところがもちろん割合といいますか、予算額というのが多いのは私も承知しているのですけれども、当初予算の割合ですとか、人口1人当たりの予算額で調べたところ、三戸町はまずは予算割合で調べてみたところ、全体の全市町村の中の19番目でした。割合としましては、教育費の割合は当初予算に対して11%、ちなみに三戸郡の中でいいますと階上町が今一番割合が高かったです。15%です。この中で、まずは三戸町が19番目という結果。次に、人口1人当

たりの予算額で見ても、三戸町は24番目で、三戸郡でいうと新郷村が5番目になっています。

このことから何が言いたいかといいますと、先ほど教育の町三戸ということで、教育にすごく力を入れているよということはお答えいただいていますし、私も、繰り返しますが、昔から三戸町は教育に力を入れているというのは分かっているのですけれども、現在というところで考えると実際どうなのかなと思ひまして、子供の減少率、もしくは教育費というところに関して、今どういうお考えといいますか、どういうように分析されているのか、再度お聞きしたいと思います。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

ただいまの質問にお答えいたします。

令和2年度の教育費の予算ランキングでもって見ると、割合でいうと19番、1人当たりでいうと24位ということでございます。その部分の分析ということでございますが、町長答弁にもありましたとおり、教育費となると学校教育のほかに社会教育というところで、子供から高齢者までの部分、それからあと施設関係、社会教育、社会体育の施設関係といったものがありますので、一概には言えないということもございますけれども、こちらの割合というところは、私のほうで捉えているのは予算の多い少ないということよりも、どこにどうお金をかけるのかということだと思います。子育て支援というところでの様々な無償化というところで、お金をかけるというのがまず1つあります。そのほかに、多分最も大事なのが子供たちにどういう教育をするのかということにお金をかけていくというところがあるので、金額ではなくて、事業の内容というところで見えていくべきではないかなというふうに捉えております。

以上でございます。

○1番（五十嵐 淳君）

先ほどのご答弁でお金ではないよと、中身だよという、ざっくり言うとそういったお答えだと思うのですけれども、もちろん内容というものは大事だと思います。ただ、数字というものは、やはり定性的なものではなく、あくまでも現実のものであって、実際に教育費自体は、もちろん先ほどおっしゃられたとおり、今回の総務省のデータというのは、純粋な小中高の教育費以外のものも含まれてはいるのですが、これはほかの自治体も全く同じ条件で、三戸町だけが違う条件ではないので、一律といいますか、同じような条件で見たときに、やはり恐らくそんなに順位は変わらないと思います。かつ、いわゆる少子化といいますか、生徒数も実際に減っているというところ、お金ではないというところはあるのですけれども、もしかするとこれはやはり子育てをする世帯からすると、魅力的に映っていないのではないかなというところが私が感じたところです。

その上で、改めてちょっと定量的な質問をさせていただきます。町長からのご答弁でもありましたが、小学校1年生から英語教育に力を入れていると、これはもう私も承知しているところです。こういった同じような状況で、ほかの全国的に事例がないのか調べさせていただいたところ、まずはさいたま市、グローバル・スタディ、これはすごく何か有名な教育プランのようなのですけれども、英検3級という1つの資格で考えたときに、中学3年生の合格率が88.4%、次に横浜市の英語教育推進プログラム、あとは京都市のスーパーグローバルハイスクールなど、いろいろ調べてみましたが、軒並み英検3級というものを一つの合格基準といいますか、指標とすると、全国平均が50%に対して70%ですとか、80%近くとか、先ほどのさいたま市も含めると88.4

%ですとか、しっかりといわゆる定量的な成果を出している。こういったところであれば、恐らく親世帯というのは、ここの学校に通わせたら何か英語を話せるようになるとか、英語に限らずですけれども、こういったスキルが身につくのではないかなという想像、イメージを持つことができると思うのです。そういったところを三戸町のほうでも実際に、特に指標といいますか、何%ですということはお出しいただく必要はないのですが、そういった成果ですとか、あとは今成果としてはまだこれからだけれども、こういったところを目指しているよというものを、いわゆる親世帯が気持ち上がるような、上がるといいますか、わくわくするような、子供たちの未来を笑顔で見守れるような、そういった内容があればお聞かせください。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

英語教育に関するご質問でございますが、ただいまさいたま市の例をお示しいただいたものについては、英語教育実施状況調査という文部科学省が行っている調査の結果でございます。三戸町の結果はどうかというところが多分皆様気になるところなのかなというふうに思いますが、令和5年度は全国50に対して三戸町低かったです。40%でした。それ以外の年度、過去5年調べましたが、昨年度だけ全国平均下回ってしまっていて、そのほかについては約5%から20%、全国平均より上回っているところがございます。ですので、おおむね全国平均よりは高い値は示しているというところで、これは小学校1年生からの英語に取り組んだところの一つの成果ではあるのかなと。さいたま市や横浜市のような高い数値にはなっていませんが、そういうデータとしてはあります。

あと、昨年度まで行っておりましたGTECという調査があるのですが、こちらは読む、書く、聞く、話すの4技能についてのスコアを測るというのですが、三戸町の場合は聞く、話す、ここが高いです。ただ、ちょっと弱いのが読む、書くのところが弱いというか、平均程度なのですが、というようなことで、学校のほうで三戸町どこに力を入れているかといいますと、去年中学校の校長先生からも聞いたのですが、まずは間違ってもいいから話しましょうと、多少文法やどこかが間違っても、まず話すところから始めましょう、相手に伝わるということが大事だよと、そこに力を入れているというところで、やはり今聞く、話すのところは高いのだけれどもという結果につながっているのかなというのがありますので、一方ではやっぱりテストのところというのもあるので、その部分も強化しながらやっていきたいというふうなことになっております。

また、昨年度からですが、弘前大学のほうとの連携協定事業でもって、英語教育に関して共同研究を行っております。そちらにつきましては、各学年での到達度を測るようなもの、それから三戸オリジナルの三戸テストというのをつくって見たらどうかというようなものもやっております。

また、あと英検です。英検というのは、非常に分かりやすいものなので、やはり英検を目標にしたほうがいいのではないかなというような話がございまして、今年度からは9年生段階での英検を無償化と、補助も始めているといったところで、英語教育については進めているということでございます。

○1番（五十嵐 淳君）

様々な取組というところを今お聞きしました。1つは、英語教育というところの今のお話だったと思うのですが、例えば今お話しされたようなカリキュラム、プログラムを組むことによって、先ほど言った英検のお話も出たと思うのですが、

実際に今すぐということはないと思いますが、これから何年か、2年、3年、5年後ぐらいに、英検の合格率というのは、埼玉や東京や京都のような形を目指せるかどうかというところはいかがでしょうか。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

埼玉のような目標を示せるのかどうかということですが、もちろんその部分が理想ではありますが、そこを掲げられればいいとは思いますが、この場で掲げますとも言える状況ではございませんので、ぜひ力を入れていって、そこに少しでも近づくような取組をしてみたいというふうに考えております。

○1番（五十嵐 淳君）

そういったお答えになるのかとは思ったのですが、なぜ私が2年、3年、5年後という話をしたかといいますと、やはりせっかく小学校1年生から英語教育というものを独自に進めている中で、最終的に例えば中学校3年時に英検3級を取るといふようになったときのいわゆる学習的なプログラムというのは、もうもちろん組まれていると思うのですが、何か先ほど冒頭で私が申し上げたような単位のような、海外の文化を学ぶような、いわゆる子供たちが学習以上に何か動機だったり意識を持てるような、そういった何か機会を設けたらいいのかなと思うのですが、例えばですが、農業学校なんかもやられているかと思っておりますので、そういったところで海外のお客様を呼んで、実際に農家の皆さんとちょっと交流を持つようなところで小学生、中学生、通訳まではいかないにしても、コミュニケーションの間に入るとか、そういったところで英語に限らずですが、こういった学習をすることでこういった生かし方ができる、将来につながる、ビジネスキャリアを描けるというような、そういった考え方、プログラムみたいなものはお考えなのかどうか教えてください。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

現在リアルで行っているものとして、三沢基地への訪問というものがございます。実際に基地内で買物をしたりとか、外国人と交流をすると、英語を使うといったような機会となっております。

今後についてであります。リアルで会えるような機会というものは、今のところはちょっとないのですが、何かそういう機会があればぜひ実施していければなというふうには考えておりますが、あともう一つは、県内で事例があるのがオンラインです。県内であるのは、フィリピンの学校と1週間に1回、必ずオンラインで交流をしている学校が県内にはございます。そういった取組というのも一つのやり方かなというふうには思っております。コロナ禍では中学生海外派遣ができなかったのも、その辺町でもオンラインのものを実施しましたが、一つの策としてはそういうのもあるというふうには考えております。

以上でございます。

○1番（五十嵐 淳君）

ありがとうございます。

ちょっと英語寄りのお話に寄ってしまったので、また全体な教育というところに戻させてもらいますが、やはり冒頭でも申し上げたように少子化だったり、少子化に伴って児童数が、生徒数がどんどん減っている。入学よりも、さらにまた転校だったり、

そういったところで減っている状況もあるかと思いますが、その中で先ほどちょっと県外の事例なんかもお話しいただいていたのですけれども、世界的に見ていくと、少子化の状況を、課題をうまく克服して行っている教育事例として、例えばシンガポールで、すごく極端な話ですけれども、小中学校時の成績で教育コースを決めるトラックキング制とか、フィンランドのエシコウルという、いわゆる就学前のプレスクールとか、デンマークの本人が将来を考えるための高校卒業後のギャップイヤーだったり、あとはこれはちょっと児童生徒ではないのですけれども、18歳以上が対象となるフォルケホイスコーレとか、あとは最近日本政府も推進しているSTEAM教育とか、いろいろ事例として新しい時代に合わせた教育法ですとか、少子化に合わせた、即応した教育だったり人材育成というものを世界、日本のみならずいろいろと取り組んでいる中で、何か事例、参考にしているものとか、今後こういったところに向かっていきたいというようなものがあればお示しください。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

今海外の事例のお話ありがとうございましたけれども、確かにその一つでありますフィンランド、世界の教育を行っているというところで、PISA、国際学力調査でも常に1位とか2位というような学力を示しているといったところがございます。1つ、フィンランドのところであるのは、やはり1クラス35人、40人といった日本の制度の中でやっていくというのがなかなか厳しいのかなど。フィンランドは、20人以下の少人数の学級でやっているといったところを考えると、やはりそこに日本も少しずつ向かっているものだと思いますけれども、そういったところに三戸町の教育というのも向かっていけばいいのだろうなというようなところがございます。ちなみに、フィンランドは小中一貫でやっております。

以上でございます。

○1番（五十嵐 淳君）

ちょっと先ほどまでの質問の意図としましては、やはり急にさいたま市だったり大都市の話をさせてもらったり、海外のお話をさせてもらったりということなのですからけれども、私個人として、このままだと本当に三戸町から子供やその世帯がいなくなるという危機感を持っているのです。やはり数字上で調べたときには、県内でいうと、すごく中立的な意見で言わせてもらおうと普通なのです、数字の中でいうと。その中で、もちろん私もいろいろお話聞いていますし、見聞きしていますので、とにかく努力されているというか、教育委員会のほうでも、町のほうでもいろいろとチャレンジしている、もちろん三戸高校の件も含めて、これはすごく分かるのですけれども、どんなに頑張っても、やはり今その場にいる、該当する子供とかその世帯がそうだよと前に向いてくれない限りは、結果的にはいなくなってしまうと思うのです。そういったところも含めて、いわゆる世界的な話ですとか、いわゆる大都市の数値のちょっとお話をさせてもらいました。

その上で、ちょっと最後の質問になるのですけれども、例えばですけれども、予算の割合というところで、教育の町三戸というところで、予算に限らずなのですからけれども、これから10年、20年という人口の減少曲線というのは、もう皆さん十分把握されているかと思うのですが、そこにそういった結果といいますか、予測を踏まえて、教育に力を入れていくというお話、冒頭にいただきましたが、改めて指標的に何か考えているものがあれば教えていただきたいです。

○教育委員会事務局長（櫻井 学君）

指標的に何か目指しているものはあるかというところでございますけれども、五十議員のおっしゃるとおり、教育に力を入れるということは、移住の調査とか見ても、やはり教育に力を入れているところに移住するという傾向がますます現在強まっているということで、教育移住というのが非常に盛んになってきているというところで、教育に魅力のないまちというのは、なかなか人口減少に歯止めがかからないというのが実際であると思います。先ほどから小中一貫教育とか、様々お話をしておりますけれども、やはり親、保護者から見れば、小中一貫教育をやっているからといったところでは、なかなか移住までというところは実際難しいというふうには我々も捉えております。例えば先ほど言ったように英検何%取れるのだよとか、そういった数値的なもの、またどういふ教育が受けられるのだよと、具体的なものがなければ、なかなか移住まではつながらないというのが実際のところであると思います。

数値的なことはなかなか申し上げられないのですが、やはりこういう教育移住とか、そういったもので成功しているところというのはどういうところに力を入れているのかなという、やっぱりさっき言ったSTEAM教育、またプログラミング、あとAI、それから逆に自然を生かした、学校林を生かすとか、そういった取組、それからあと今特に全国的にはやっているというか、探求学習、そういったところというのは、やはり特徴ですね、三戸町の学校に来たらこういう成果が出るのだよ、こういう学習ができるのだよといった分かりやすいものを今後示すようにしてまいりたいというふうに考えております。

○1番（五十嵐 淳君）

ありがとうございました。先ほど、すみません、最後の質問というお話をさせてもらったのですが、やはり繰り返しになるのですけれども、私はすごく人口減少、特に若年者、子供、その親世帯というのがこれから減少していく、そのスピードは加速していく危機感というのをすごく持っています。それを少しでも鈍化させたり、すごく言い方は適切ではないかもしれないのですけれども、周辺の町村から三戸町だったというふうに思って、周辺に限らずですけれども、地域外からそういった世帯を呼び込むとなったら、極端な次世代への投資というのは必要だと思っています。これは、これからゆっくり考えましょうということではなくて、もう喫緊の課題だと思っていますので、そういったところで、現時点では例えば教育費を倍にしますとか、教育費をもし倍にしたらこういうことをしますということは言えないというのは重々承知しているのですけれども、そういった何か危機感に対してのお考えと、それにどういふふうに向かっていくのかというのを、町長含め、もしありましたらお聞かせください。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、お答えを申し上げます。

五十嵐議員のほうからも、今の現状の中に対しての危機感というお話がございました。私どもも危機感というものにつきましては、様々懸念というものを持っております。そういう中で、教育委員会、また学校ともよく話をしながら、本当に何ができるのかということをしつかりと今打合せ等も進めております。この場で、ではこういうことをしていきますよという話は、まだ発表できる段階ではありませんが、いずれにしても少子化は進行していきます。進行していく中で、今の三戸学園の持っているキャパシティーを最大限に生かし、人口が減っていく中で、例えば先ほども話に出まし

た1人当たりの教育費がそのまま下がっていくという状況は、これは絶対にあってはならないことだと思います。ですので、その分子供たち一人一人に対しての教育を手厚くしていく、そしてそれが今本当に必要だと言われているAIであったり、プログラミングであったり、とにかくこれから10年、20年、30年先の子供たちが本当に生きていくことができる、やはりそういう環境を学校として、また町としてしっかりつくっていかなければならないという、そういう思いでございます。

そういった取組の中で、例えば数値化というところは、成績や成果の部分ももちろんだと思いますが、生活環境、また学校内の環境も含めて数値化をしていく努力は、これはもう直ちに進めていく必要があると、そのように考えております。

○1番（五十嵐 淳君）

ありがとうございました。指標化、見える化というのはもちろん大事です。私もそれは一番大事だと思っていますが、まずは子供たちが笑顔で学校に行きたいというふうに行く、そして何かを学びたいという意欲、動機を持つ、そういった動線づくりというところを意識していただきたいと思います。幸いにも私議員になって1年目で、まだ3年ありますので、引き続き本件に関しましては追っていききたいといいますが、これからはちょっと注視していきたいと思いますので、ぜひ執行部のほうで子供たちが喜ぶような、そういった町、三戸町にしていきたいと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

散 会

○議長（竹原 義人君）

以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

午後2時35分 散会

第4日目 令和6年9月6日(金)

○議事日程

- 第1 議案第42号 三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案
- 第2 議案第43号 青森県後期高齢者医療広域連合規約の変更について
- 第3 議案第44号 財産取得について
- 第4 議案第45号 三戸町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて
- 第5 議案第46号 三戸町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについて
- 第6 議案第47号 三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて
- 第7 議案第48号 令和6年度三戸町一般会計補正予算(第3号)
- 第8 議案第49号 令和6年度三戸町営簡易水道事業会計補正予算(第1号)
- 第9 議案第50号 令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算(第1号)
- 第10 議案第51号 令和5年度三戸町一般会計歳入歳出決算認定について
- 第11 議案第52号 令和5年度三戸町立学校給食共同調理場特別会計歳入歳出決算認定について
- 第12 議案第53号 令和5年度三戸町営簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 第13 議案第54号 令和5年度三戸町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 第14 議案第55号 令和5年度三戸町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 第15 議案第56号 令和5年度三戸町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 第16 議案第57号 令和5年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について
- 第17 議案第58号 令和5年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 第18 決算特別委員会設置(令和5年度決算認定8件付託)

○本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○出席議員(14人)

1番	五十嵐	淳	君
2番	松尾	道郎	君
3番	柳	隼圭	君
4番	小笠原	君男	君
5番	和田	誠	君
6番	山田	将之	君
7番	栗谷川	柳子	君
8番	藤原	文雄	君
9番	番屋	博光	君

10番 千葉有子君
 11番 久慈 聡君
 12番 澤田道憲君
 13番 佐々木和志君
 14番 竹原義人君

○欠席議員（0人）

○地方自治法第121条の規定により説明のために出席した者の職氏名

○町長部局

説明員	三戸町長	松尾和彦君
委任説明員	副町長	馬場浩治君
	参事（住民福祉課長事務取扱）	貝守世光君
	参事（総務課長事務取扱）	武士沢忠正君
	健康推進課長	太田明雄君
	会計管理者（会計課長）	井畑淳一君
	農林課長	極檀浩君
	建設課長	齋藤優君
	まちづくり推進課長	中村正君
	税務課長	下村太平君
	三戸中央病院事務長	松崎達雄君
	総務課財政指導監	多賀昭宏君
	まちづくり推進課やわらかさんのへ交流室長	北村哲也君
	三戸中央病院事務次長	中村義信君
	総務課防災危機管理室長	馬場幸治君

○農業委員会事務局

説明員	会長	梅田晃君
委任説明員	事務局長	極檀浩君

○教育委員会事務局

説明員	教育長	慶長隆光君
委任説明員	事務局長	櫻井学君
	史跡対策室長	金子祐之君

○職務のために出席した事務局職員

参事（議会事務局長事務取扱）	馬場均君
総括主幹	櫻井優子君

発言の取消し

○議長（竹原 義人君）

ただいま柳零圭太議員から、昨日の一般質問の発言について、会議規則第64条の規定によって、お手元に配りました発言取消し申出書に記載した部分を取り消したいとの申入れがありました。

お諮りいたします。これを許可することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。

よって、発言の取消しの申入れを許可し、会議録から削除することに決定しました。

○議長（竹原 義人君）

本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

日程第1 議案第42号 三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案

○議長（竹原 義人君）

日程第1、議案第42号 三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案を議題とします。補足説明願います。

住民福祉課長。

○住民福祉課長（貝守 世光君）

議案第42号 三戸町国民健康保険条例の一部を改正する条例案について補足説明申し上げます。

本案は、令和6年12月2日から現行の健康保険証の発行が終了し、マイナンバーによる保険証利用を基本とする仕組みに移行することに伴い、被保険者証の返還に係る規定等を改めるため、条例の一部を改正するものであります。

改正の主な内容であります。紙の被保険者証の新規発行がされなくなり、その返還を求めることもなくなることから、過料について規定する条文から返還の求めに応じないという部分を削除しようとするものであります。

以上で補足説明を終わります。よろしくお願いたします。

○議長（竹原 義人君）

質疑に入ります。

(「質疑なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

質疑を終結します。
討論に入ります。

(「討論なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

討論を終結します。
これより議案第42号を採決します。
本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

異議なしと認めます。
議案第42号は原案のとおり可決されました。

日程第2 議案第43号 青森県後期高齢者医療広域連合規約の変更について

○議長(竹原 義人君)

日程第2、議案第43号 青森県後期高齢者医療広域連合規約の変更についてを議題とします。補足説明願います。
健康推進課長。

○健康推進課長(太田 明雄君)

議案第43号 青森県後期高齢者医療広域連合規約の変更について補足説明申し上げます。

本案は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部改正により、令和6年12月2日以降、現行の被保険者証が廃止されることに伴い、青森県後期高齢者医療広域連合から当該広域連合規約の変更について、地方自治法第291条の3第1項の規定に基づく協議の依頼があったことから、同法第291条の11の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

規約の変更内容であります。広域連合の処理する事務のうち、市町村において行う事務を規定している別表第1の規定中、「被保険者証及び資格証明書」を「資格確認書等」に改めるものであります。

以上で補足説明を終わります。よろしくお願いたします。

○議長(竹原 義人君)

質疑に入ります。

(「質疑なし」と言う者あり)

○議長（竹原 義人君）

質疑を終結します。
討論に入ります。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

討論を終結します。
これより議案第43号を採決します。
本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。議案第43号は原案のとおり可決されました。

日程第3 議案第44号 財産取得について

○議長（竹原 義人君）

日程第3、議案第44号 財産取得についてを議題とします。補足説明願います。
総務課長。

○総務課長（武士沢 忠正君）

議案第44号 財産取得について補足説明を申し上げます。

本案は、当町の火災、災害時において、三戸町消防団が活動のため使用する消防ポンプ自動車について、老朽化などから活動に支障を来すおそれのある消防ポンプ自動車1台を更新しようとするものであります。

消防ポンプ自動車の配備先は、三戸町消防団第15分団であり、現在団が使用している車両は平成8年1月に購入したものであります。7月25日、指名競争入札を執行し、2,689万8,600円で八戸市大字類家字縄手下7番地11号、三栄防火機材株式会社代表取締役、木村壮利が落札をしております。この落札者と物品売買契約を締結するため、地方自治法96条第1項第8号並びに議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

以上で補足説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（竹原 義人君）

質疑に入ります。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

質疑を終結します。
討論に入ります。

(「討論なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

討論を終結します。

これより議案第44号を採決します。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

異議なしと認めます。議案第44号は原案のとおり可決されました。

日程第4 議案第45号 三戸町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて

○議長(竹原 義人君)

日程第4、議案第45号 三戸町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについてを議題とします。

質疑に入ります。

(「質疑なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

質疑を終結します。

討論に入ります。

(「討論なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

討論を終結します。

これより議案第45号を採決します。

本案はこれに同意することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

異議なしと認めます。議案第45号はこれに同意することに決定しました。

日程第5 議案第46号 三戸町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについて

○議長(竹原 義人君)

日程第5、議案第46号 三戸町固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を

求めることについてを議題とします。
質疑に入ります。

(「質疑なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)
質疑を終結します。
討論に入ります。

(「討論なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)
討論を終結します。
これより議案第46号を採決します。
本案はこれに同意することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)
異議なしと認めます。議案第46号はこれに同意することに決定しました。

**日程第6 議案第47号 三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めること
について**

○議長(竹原 義人君)
日程第6、議案第47号 三戸町人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めること
についてを議題とします。
質疑に入ります。

(「質疑なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)
質疑を終結します。
討論に入ります。

(「討論なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)
討論を終結します。
これより議案第47号を採決します。
本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。

議案第47号は原案のとおり可決されました。

日程第7 議案第48号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第3号）

○議長（竹原 義人君）

日程第7、議案第48号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第3号）を議題とします。補足説明願います。

総務課長。

○総務課長（武士沢 忠正君）

議案第48号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第3号）について補足説明を申し上げます。

本案は、令和6年度三戸町一般会計既決予算額66億8,417万円に歳入歳出それぞれ7,975万1,000円を追加し、予算総額を67億6,392万1,000円にしようとするものであります。

歳入についてご説明を申し上げます。5ページをお願いいたします。14款1項1目民生費国庫負担金では、こども未来戦略に基づく児童手当の拡充により、児童手当負担金1,670万5,000円を増額しております。

2項1目総務費国庫補助金では2,618万1,000円を増額しております。デジタル基盤改革支援補助金2,356万2,000円が増額が主なものであり、総合行政情報システム標準化対応業務委託料に対する補助金であります。

2目民生費国庫補助金では576万1,000円を増額しております。子ども・子育て支援事業費補助金554万6,000円が増額が主なものであり、児童手当拡充に伴うシステム改修等に対する補助金であります。

15款2項1目総務費県補助金では2,314万2,000円を増額しております。令和6年度より原子力施設立地振興対策事業助成金に代わり、核燃料物質等取扱税交付金が新たに交付されるものであります。

6ページをお願いいたします。18款1項1目繰入金では、財政調整基金取り崩し繰入金3,952万4,000円を減額しております。

19款1項1目繰越金では、令和5年度決算により前年度繰越金5,974万1,000円を増額しております。

21款1項6目臨時財政対策債では、発行可能額の確定により60万円を増額しております。

次に、歳出についてご説明をいたします。初めに、各目に計上しております職員人件費は、一般職員及び会計年度任用職員の人件費を総額153万8,000円増額し、職員児童手当を総額134万円増額しております。

8ページをお願いいたします。2款1項3目総合行政情報システム導入費では2,668万7,000円を増額しております。12節、総合行政情報システム標準化対応業務委託料2,356万2,000円が増額が主なものであり、全額が国費で措置をされるものであります。

5目地方創生推進費では56万円を増額しております。今後予定をしております独立行政法人国際協力機構職員の受入れに要する経費を計上するものであります。

7目企画費では60万9,000円を増額しております。9ページ中段にあります18節、集会所設備改修補助金58万5,000円の追加が主なものであり、城南町内会館のトイレ改修費用に対し、補助金を交付するものであります。

10ページをお願いいたします。3款1項3目障害者福祉費では928万2,000円を増額しております。22節、過年度負担金返還金856万3,000円の追加が主なものであります。

7目総合福祉センター費では、湧水ポンプ交換のため、修繕費41万8,000円を増額しております。

2項1目児童福祉総務費では264万9,000円を増額しております。22節、過年度交付金等返還金246万4,000円の追加が主なものであります。

2目児童措置費では2,362万円を増額しております。11ページにあります12節、児童手当システム改修委託料484万円及び19節、児童手当1,842万円の増額は、児童手当の拡充に伴うものであります。

3目斗川児童館費では、食器消毒保管庫を更新するため、施設備品購入費46万7,000円を増額しております。

12ページをお願いいたします。4款1項5目環境衛生費では、簡易水道特別会計繰出金582万8,000円を増額しております。

13ページをお願いいたします。6款1項3目農業振興費では73万4,000円を増額しております。申請見込みから、18節、鳥獣対策総合事業費補助金71万6,000円の増額が主なものであります。

14ページをお願いいたします。7款1項2目観光費では768万4,000円を増額しております。今年度の城山公園における桜の開花状況から鳥害対策、樹勢回復を実施するため、1節、会計年度任用職員報酬102万6,000円、12節、桜木等維持管理委託料292万7,000円の増加が主なものであります。18節、さんのへ秋まつり事業費補助金123万9,000円の増額は、小中学生の参加費用に対する助成金の追加、物価高騰による山車組助成金の増額が主なものであります。

15ページをお願いいたします。城山公園イベント事業費補助金102万2,000円は、10月に城山公園において開催予定のイベントに対する補助金を追加するものであります。

以上で補足説明を終わります。よろしくをお願いいたします。

○議長（竹原 義人君）

質疑に入ります。

佐々木議員。

○13番（佐々木 和志君）

14ページ、7款1項2目観光費、12節委託料、桜木等維持管理委託料について、3点ほど質問いたします。

過去の議会において、桜木の管理に関して問題提起したものに対するの対応だと思われま。それ自体に関しては、大変評価するものであります。ただ、委託料という節にあるというところで、確認の意味で伺います。最終的な目標としては、城山公園の桜が毎年咲き誇るというところが目標でありますので、それに対してこの金額が多いのか少ないのか、これで効果が出せるのかということに関しては、今の時点では分かりませんが、事業を進めていく中で意識していただきたいのが専門家のアドバイスや、桜木の維持管理に関して取り組んでいる先進地の事例等を十分参考にしていただきたいということでもあります。

それと、何年かかけて、その年、年で様々な要因によって桜の開花が影響されるものと思われまますので、来年度だけの結果だけでは判断できない、2年、3年かけてようやく確実な管理方法というのがつくられると思います。それをつくっていく中で、担当課の職員も替わるだろうし、その年、年で取組に波があるようであれば、せっかく貴重な財源を充てた意味がなくなるので、何年たっても恒久的な取組が維持されるように、桜木の管理に関してマニュアル化をしていく必要があるというふうに思います。この点に関してどのように考えているか、これが2点目。

あと、3点目、繰り返しになりますけれども、委託料ということになれば、業者にお金を払って委託を、全てお任せするというふうなイメージがあるのですけれども、1点目、2点目に重複しますけれども、その都度町が委託するのであれば、その業者と常に連絡を取り合いながら、一緒になって事業を進めていくというふうなことが求められると思います。その点に関して、今どのように考えているか。

以上、3点よろしく申し上げます。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

3点のご質問にお答えをいたします。

まず、委託料の内容につきましてですが、今回城山公園のソメイヨシノ、特に人が集まるところの樹勢が弱まっているソメイヨシノを中心に施肥のほうを行うところで計算をさせていただきます。1本当当たりの単価でいきまして、二百五十数本のソメイヨシノを中心とした木に施肥を行うための経費として、今回委託料を計上しているものがございます。

あと、専門家とか先進地の事例というものを参考にしてほしいということのご質問でございました。今回の予算計上に当たりましては、複数の樹木医にご相談をいたしまして、現地を見ていただき、桜木頂いたところ、城山の公園の桜は丁寧にやられているけれども、今回花が少なかった要因といたしましては3つあるのではないかと。その1つがウソの食害、あと昨年の夏の猛暑によって雨が少なくて、水分、油分を土壌から取り入れることができなかつたのではないかとということ、また部分的に枯れてしまっている木もあって、樹勢を回復させるための対策、こういうのが必要だということのご意見をいただいております。

そこで、同じ国の史跡指定を受けている、桜の名所としても知られる弘前城跡の桜の管理方法について学ぶために、今年の8月、先月初旬に教育委員会とまちづくり推進課の担当者で弘前市の都市整備部公園緑地課のほうを訪ねまして、市の職員で樹木医の資格を持っている方、チーム桜守の一員でもある方とお会いをしまして、お話を聞きました。ちょっと余談にはなりますが、弘前公園ではウソの飛来に合わせて臨時職員を雇用して、1日2回ウソ鳥の飛来数の確認と、あとロケット花火やソフトエアガン、カイト鷹、これ鳥払い、鳥よけのカイト、たこの鷹による追い払いを行っていること。あと、施肥につきましては、先方のほうの掘削可能な15センチ程度で行っていること。3つ目としては、低い位置の枝に光が入るような、樹高で選定をしていること。4つ目は、桜の植え替えは行っておらず、不定根、主根、主な根以外の根を不定根と呼ぶようですけれども、これを太らせて土壌に誘導することで、樹勢を回復しているというふうな説明を受けております。

今回城山公園の桜の開花が不良だったと、要因としては同じようなウソの対策であるとか、施肥であるとか、剪定が有効ということでのご意見をいただきましたので、これを参考にいたしまして、今回当町のほうでも監視員による園内の見回りと、あと大きな音の出るロケット花火とかスターターピストル、鳥よけのカイト鷹を使用した

鳥の追い払い、あと樹勢回復の肥料を施すということで、この対策事業費として総額で477万3,000円というもので計上をしているものでございます。こちらのほうが今回アドバイス、先進事例のほうを踏まえて計上しているものでございます。

あと、2つ目、マニュアル化につきましてですが、今回弘前公園の樹木医の方、職員の方からいろいろご説明なり資料のほうの提供も受けまして、説明を受けたのですが、その中に桜の管理の方法ということでもご紹介をいただいております、ソメイヨシノの年間の成長の暦、成長暦、それに合わせた作業スケジュールというのでも提示いただいております。これは、桜の成長期とか休眠期に何をするのかとか、どういう作業をすれば効果的かというのを弘前公園のほうでも試行錯誤しながらやっているようでして、三戸町においても監視員の作業や専門業者の施肥の方法というのは、実際に成果を上げている弘前公園の例を参考に実施していきたいというふうに考えております。まず、弘前公園での管理方法に倣った形での作業ということになりますけれども、今回の打合せ資料を基に、作業員であるとか、そういう方が見て分かるように、伝えていけるように、書き物として準備して対応していきたいというふうに考えております。

あと、3つ目の委託料で業者のほうやるものになるけれども、その都度町のほうとのやり取りとかできないかと、やってほしいということでございますが、今の弘前公園のほうの資料というのもございますので、そういうのも業者に見せて、こういうようなやり方でやってほしいということで、いろいろ相談をしながら実施してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○13番（佐々木 和志君）

最終的には桜が咲けばそれでいい話なのですが、1点だけ、専門家のアドバイスという言葉を使いました。その専門家というのが今の答弁の中では、町内もしくは近隣のそういう業者の範囲なのかなというふうな印象を受けました。私としては、さらに専門的な知識を持った大学とか研究所なりのそういうアドバイスというのですか、そういうところもぜひ調べていただいて、私も素人ですからあまり言えないのですけれども、まずは今回の予算で結果を残すということを前提に、できることは全てやる、注げる知識を全て集めるということに尽力していただきたいというところです。その点に関して、もう一回だけお願いしたいと。

○まちづくり推進課長（中村 正君）

今回のものに当たりましては、複数の樹木医の方、専門的な知識を持っている方、3名からいろいろお話をお聞きしたものであります。議員からのご質問に、要望にありますように、広く情報のほうを集めて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（竹原 義人君）

そのほか質疑ございますか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

質疑を終結します。
討論に入ります。

(「討論なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

討論を終結します。
これより議案第48号を採決します。
本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長(竹原 義人君)

異議なしと認めます。
議案第48号は原案のとおり可決されました。

日程第8 議案第49号 令和6年度三戸町営簡易水道事業会計補正予算(第1号)

○議長(竹原 義人君)

日程第8、議案第49号 令和6年度三戸町営簡易水道事業会計補正予算(第1号)を議題とします。補足説明願います。
建設課長。

○建設課長(齋藤 優君)

議案第49号 令和6年度三戸町営簡易水道事業会計補正予算(第1号)につきまして補足説明を申し上げます。

本案は、令和6年度三戸町簡易水道事業会計につきまして、所要の改正を行うものでございます。

初めに、第2条、収益的収入及び支出でございますが、収入、第1款簡易水道事業収益では、既決予算額9,077万9,000円に582万8,000円を追加し、総額を9,660万7,000円にするものでございます。

支出、第1款簡易水道事業費用では、既決予定額9,480万2,000円に582万8,000円を追加し、総額を1億63万円にするものでございます。

第3条、特例的収入及び支出でございますが、地方公営企業法施行令の規定により、令和6年度に属する令和5年度分の債権及び債務として整理する未収金及び未払金が確定したことから、(1)、未収金では既決予定額280万円に12万1,000円を追加し、総額を292万1,000円に、(2)未払金では既決予定額647万1,000円に76万5,000円を追加し、総額を723万6,000円にするものでございます。

未収金の内容でございますが、水道使用料1月から3月分でございます。

未払金の内容でございますが、水質検査委託料288万2,000円、公営企業会計移行支援業務委託料262万円、大舌、松山地区配水施設流量計、大舌配水池薬剤注入管、蛇沼、貝守、袴田3地区の増圧ポンプの修繕を合わせて124万1,000円、各施設の電気料3月分の合計32万9,000円が主なものでございます。

1ページをお願いいたします。補正予算実施計画書につきましてご説明申し上げます。

す。収益的収入の1款2項営業外収益では、一般会計からの繰入金に当たる他会計補助金582万8,000円を増額してございます。

2ページをお願いいたします。収益的支出の1款1項3目配水及び給水費の修繕費547万8,000円の増額は、本年6月17日及び18日に蛇沼葛子平地区及び蛇沼本村地区で発生した漏水事故における管路及び道路の復旧に要する経費を計上したものでございます。

以上で補足説明を終わります。よろしくをお願いいたします。

○議長（竹原 義人君）

質疑に入ります。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

質疑を終結します。

討論に入ります。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

討論を終結します。

これより議案第49号を採決します。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。議案第49号は原案のとおり可決されました。

日程第9 議案第50号 令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算（第1号）

○議長（竹原 義人君）

日程第9、議案第50号 令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算（第1号）を議題とします。補足説明願います。

建設課長。

○建設課長（齋藤 優君）

議案第50号 令和6年度三戸町下水道事業会計補正予算（第1号）につきまして補足説明を申し上げます。

本案は、令和6年度三戸町下水道事業会計につきまして、所要の改正を行うものでございます。

第2条、特例的収入及び支出でございしますが、地方公営企業法施行令の規定により、令和6年度に属する令和5年度分の債権及び債務として整理する未収金及び未払金が確定したことから、(1)、未収金では既決予定額206万円から92万2,000円を減額し、

総額を113万8,000円に、(2)、未払金では既決予定額738万3,000円に17万5,000円を追加し、総額を755万8,000円にするものでございます。

未払金の内容でございますが、下水道使用料2月分と3月分でございます。

未払金の内容でございますが、公営企業会計移行支援業務委託料200万円、処理場施設等運転管理業務委託料3月分189万5,000円、水質等検査委託料151万8,000円、浄化センター及びマンホールポンプ電気料3月55万2,000円、汚泥等処分委託料3月分37万4,000円、環境施設非常発報装置監視業務委託料29万7,000円、公共ます設置工事請負費28万6,000円、受益者負担金システム保守委託料26万4,000円、公営企業会計システム保守委託料下半期分12万8,000円が主なものでございます。

以上で補足説明を終わります。よろしくお願いたします。

○議長（竹原 義人君）

質疑に入ります。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

質疑を終結します。

討論に入ります。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

討論を終結します。

これより議案第50号を採決します。

本案は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。議案第50号は原案のとおり可決されました。

日程第10	議案第51号	令和5年度三戸町一般会計歳入歳出決算認定について
日程第11	議案第52号	令和5年度三戸町立学校給食共同調理場特別会計歳入歳出決算認定について
日程第12	議案第53号	令和5年度三戸町営簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第13	議案第54号	令和5年度三戸町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
日程第14	議案第55号	令和5年度三戸町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
日程第15	議案第56号	令和5年度三戸町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
日程第16	議案第57号	令和5年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決

算認定について

日程第17 議案第58号 令和5年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計歳入歳出決算認定について

○議長（竹原 義人君）

日程第10、議案第51号 令和5年度三戸町一般会計歳入歳出決算認定についてから日程第17、議案第58号 令和5年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計歳入歳出決算認定についてまでを一括議題とします。

日程第18 決算特別委員会設置（令和5年度決算認定8件付託）

○議長（竹原 義人君）

お諮りします。

決算認定8件につきましては、議員全員で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託して審査することとしたいと思っております。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第51号から議案第58号までを議員全員で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定しました。

お諮りします。ただいま設置されました決算特別委員会の委員長及び副委員長を議長において指名することにしたいと思っております。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。したがって、議長が指名することに決定しました。

委員長に12番、澤田道憲議員、副委員長に11番、久慈聡議員を指名します。

決算特別委員会委員長の挨拶があります。

決算特別委員会、澤田道憲委員長。

○決算特別委員長（澤田 道憲君）

ただいま議員各位の満場の下に決算特別委員会委員長にご推挙いただきました澤田です。委員各位の格別のご協力、ご指導を賜りたく、この重責を全うし、もって議会の負託に応えたいとお願いいたしております。委員の皆様のご協力のほどをお願いいたしまして、簡単ではございますが、就任の挨拶とさせていただきます。

令和6年9月6日、決算特別委員会委員長、澤田道憲。

散 会

○議長（竹原 義人君）

以上で本日の日程は全部終了しました。

9月9日午前10時から決算特別委員会を開会することとし、本日はこれで散会します。

午前10時45分 散会

第8日目 令和6年9月10日（火）

○議事日程

- 第1 議案第51号から議案第58号まで
決算特別委員会委員長報告・採決
 - 第2 常任委員会の所管事務調査、請願及び陳情の審査結果の報告について
・総務文教常任委員会
・民生商工常任委員会
・建設農林常任委員会
 - 第3 常任委員会の閉会中における所管事務調査について
 - 第4 諸般の報告
・議長の報告
-

○追加議事日程

- 第1 副議長辞職の件
 - 第2 副議長の選挙
 - 第3 千葉有子議員の議会運営委員の辞任
 - 第4 議会運営委員の選任
 - 第5 町長提案理由の説明
 - 第6 議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案
 - 第7 議案第60号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第4号）
-

○本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

○出席議員（14人）

1番	五十嵐	淳	君
2番	松尾	道郎	君
3番	柳	雫	圭太君
4番	小笠原	君	男君
5番	和田		誠君
6番	山田	将之	君
7番	栗谷川	柳子	君
8番	藤原	文雄	君
9番	番屋	博光	君
10番	千葉	有子	君
11番	久慈		聡君
12番	澤田	道憲	君
13番	佐々木	和志	君
14番	竹原	義人	君
-

○欠席議員（0人）

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

○町長部局

説明員	三戸町長	松尾和彦君
委任説明員	副町長	馬場浩治君
	参事（住民福祉課長事務取扱）	貝守世光君
	参事（総務課長事務取扱）	武士沢忠正君
	健康推進課長	太田明雄君
	会計管理者（会計課長）	井畑淳一君
	農林課長	極檀浩君
	建設課長	齋藤優君
	まちづくり推進課長	中村正君
	税務課長	下村太平君
	三戸中央病院事務長	松崎達雄君
	総務課財政指導監	多賀昭宏君
	まちづくり推進課やわらかさんの交流室長	北村哲也君
	三戸中央病院事務次長	中村義信君
	総務課防災危機管理室長	馬場幸治君

○農業委員会事務局

説明員	会長	梅田晃君
委任説明員	事務局長	極檀浩君

○教育委員会事務局

説明員	教育長	慶長隆光君
委任説明員	事務局長	櫻井学君
	史跡対策室長	金子祐之君

○職務のために出席した事務局職員

参事（議会事務局長事務取扱）	馬場均君
総括主幹	櫻井優子君

午後2時40分 開議

○議長（竹原 義人君）

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の日程表のとおりであります。

日程第1 議案第51号から議案第58号まで決算特別委員会委員長報告

○議長（竹原 義人君）

日程第1、議案第51号から議案第58号までの決算認定8件を一括議題とします。

本案について、決算特別委員会委員長の報告を求めます。

12番、澤田道憲委員長。

○決算特別委員長（澤田 道憲君）

決算特別委員会の審議の経過と結果についてご報告いたします。

去る9月6日の本会議において、決算特別委員会に付託されました令和5年度決算認定8件について、9月9日、10日の本委員会において慎重審議の結果、いずれも原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。

以上で報告を終わります。令和6年9月10日、決算特別委員会委員長、澤田道憲。

○議長（竹原 義人君）

お諮りします。

この決算認定8件に対する委員長の報告は認定とするものです。決算認定8件について、委員長報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第51号から議案第58号までの決算認定8件は委員長報告のとおり認定することに決定しました。

日程第2 常任委員会の所管事務調査、請願及び陳情の審査結果の報告について

○議長（竹原 義人君）

日程第2、常任委員会の所管事務調査、請願及び陳情の審査結果の報告についてを議題とします。

本件について、常任委員会委員長の報告を求めます。

6番、総務文教常任委員会、山田将之委員長。

○総務文教常任委員長（山田 将之君）

去る6月定例会において本委員会に閉会中の調査に付された所管事務調査のため、7月22日委員会を招集、総務課長ほか関係職員の出席を求め、町有財産の管理状況について調査いたしました。その調査結果は、お手元に配付しております別紙報告書の

とおりであります。

以上で報告を終わります。令和6年9月10日、総務文教常任委員会委員長、山田将之。

○議長（竹原 義人君）

次に、民生商工常任委員会委員長の報告を求めます。
7番、民生商工常任委員会、栗谷川柳子委員長。

○民生商工常任委員長（栗谷川 柳子君）

去る6月定例会において本委員会に閉会中の調査に付された所管事務調査のため、6月26日委員会を招集、三戸中央病院事務長のほか関係職員の出席を求め、三戸中央病院の運営状況について調査いたしました。その調査結果は、お手元に配付しております別紙報告書のとおりであります。

以上で報告を終わります。令和6年9月10日、民生商工常任委員会委員長、栗谷川柳子。

○議長（竹原 義人君）

次に、建設農林常任委員会委員長の報告を求めます。
11番、建設農林常任委員会、久慈聡委員長。

○建設農林常任委員長（久慈 聡君）

去る6月定例会において本委員会に閉会中の調査に付された所管事務調査のため、6月27日委員会を招集、農林課長のほか関係職員の出席を求め、農作物の生育状況などについて調査いたしました。その調査結果は、お手元に配付しております別紙報告書のとおりであります。

また、9月定例会において付託されました令和6年請願第1号 梅内字桐萩16番地地先～279番地の3の地先の法定外道路整備に関する請願書については、継続審査であります。

以上で報告を終わります。令和6年9月10日、建設農林常任委員会委員長、久慈聡。

○議長（竹原 義人君）

暫時休憩いたします。

（午後 2時47分）

休 憩

（午後 2時52分）

○議長（竹原 義人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第3 常任委員会の閉会中における所管事務調査について

○議長（竹原 義人君）

日程第3、常任委員会の閉会中における所管事務調査についてを議題とします。

各常任委員会委員長から、会議規則第75条の規定により、お手元に配付しましたとおり閉会中の調査の申出があります。

お諮りします。各委員長から申出のとおり閉会中の調査に付することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。したがって、各委員長から申出のとおり閉会中の調査に付することに決定しました。

日程第4 諸般の報告

1. 議長の報告

○議長（竹原 義人君）

日程第4、諸般の報告を行います。

議長の報告は、会議等に出席した状況をお手元に配付しておりますので、ご了承ください。

追加日程の提出

○議長（竹原 義人君）

お諮りします。

佐々木和志副議長から副議長の辞職願が提出されています。副議長辞職の件を日程に追加し、追加日程第1として議題としたいと思えます。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。副議長辞職の件を日程に追加し、追加日程第1として議題とすることに決定しました。

追加日程第1 副議長辞職の件

○議長（竹原 義人君）

追加日程第1、副議長辞職の件を議題とします。地方自治法第117条の規定によって、佐々木和志議員の退場を求めます。

（佐々木 和志君 退場）

○議長（竹原 義人君）

職員に退職願を朗読させます。

○議会事務局長（馬場 均君）

辞職願を朗読いたします。

このたび諸事情により副議長を辞職したいので、許可されるようお願い出ます。
令和6年9月10日、三戸町議会議長、竹原義人殿。三戸町議会副議長、佐々木和志。
以上です。

○議長（竹原 義人君）

お諮りします。

佐々木和志議員の副議長の辞職を許可することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。佐々木和志議員の副議長の辞職を許可することに決定しました。

佐々木和志議員の入場を許します。

（佐々木 和志君 入場）

追加日程の提出

○議長（竹原 義人君）

ただいま副議長が欠けました。

お諮りします。副議長の選挙を日程に追加し、追加日程第2として選挙を行いたい
と思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。副議長の選挙を日程に追加し、追加日程第2として選挙を行
うことに決定しました。

追加日程第2 副議長の選挙

○議長（竹原 義人君）

追加日程第2、副議長の選挙を行います。

お諮りします。選挙の方法については、地方自治法第118条第2項の規定によって
指名推選にしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。したがって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

お諮りします。指名の方法については、議長が指名することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。したがって、議長が指名することに決定しました。

副議長に千葉有子議員を指名します。

お諮りします。ただいま議長が指名した千葉有子議員を副議長の当選人と定めることにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。ただいま指名した千葉有子議員が副議長に当選されました。

ただいま副議長に当選された千葉有子議員が議場におられます。会議規則第33条第2項の規定によって当選の告知をします。

ここで副議長に当選された千葉有子議員は、登壇の上、副議長就任の挨拶をお願いします。

千葉有子議員。

○副議長（千葉 有子君）

ただいま議員各位のご推挙によりまして、副議長を務めさせていただくことになりました。竹原議長の下、議会が公正かつ円滑に運営され、町勢発展につながるよう誠心誠意努めてまいり所存でございます。皆様方のご支援、ご協力をいただきながら一緒に前に進んでいければと思っております。誠に簡単ではありますが、就任の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

追加日程の提出

○議長（竹原 義人君）

ただいま千葉有子議員から議会運営委員を辞任したいとの申出がありました。

お諮りします。千葉有子議員の議会運営委員の辞任を日程に追加し、追加日程第3として議題としたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。千葉有子議員の議会運営委員の辞任を日程に追加し、追加日程第3として議題とすることに決定しました。

追加日程第3 千葉有子議員の議会運営委員の辞任

○議長（竹原 義人君）

追加日程第3、千葉有子議員の議会運営委員の辞任を議題とします。地方自治法第117条の規定によって、千葉有子議員の退場を求めます。

（千葉 有子君 退場）

○議長（竹原 義人君）

千葉有子議員から議会運営委員を辞任したいとの申出がありました。
お諮りします。本件は、申出のとおり辞任を許可することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。千葉有子議員の議会運営委員の辞任を許可することに決定しました。

千葉有子議員の入場を許します。

（千葉 有子君 入場）

追加日程の提出

○議長（竹原 義人君）

ただいま議会運営委員に欠員が生じました。

お諮りします。議会運営委員の選任を日程に追加し、追加日程第4として議会運営委員の選任を行いたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。議会運営委員の選任を日程に追加し、追加日程第4として議会運営委員の選任を行うことに決定しました。

追加日程第4 議会運営委員の選任

○議長（竹原 義人君）

追加日程第4、議会運営委員の選任を行います。

議会運営委員は1名欠員であることから、委員会条例第7条第2項の規定により、五十嵐淳議員を指名したいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。議会運営委員に五十嵐淳議員を選任することに決定しました。

追加日程の提出

○議長（竹原 義人君）

お諮りします。

町長から議案第59号及び議案第60号が提出されました。これを日程に追加し、議題としたいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○議長（竹原 義人君）

異議なしと認めます。議案第59号及び議案第60号を日程に追加し、議題とすることに決定しました。

職員に議案を朗読させます。

○議会事務局長（馬場 均君）

第519回三戸町議会定例会追加提出議案を朗読いたします。

議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案について。

議案第60号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第4号）。

以上、2件でございます。

○議長（竹原 義人君）

朗読させました議案を一括上程します。

追加日程第5 町長提案理由の説明

○議長（竹原 義人君）

追加日程第5、上程しました追加議案について、町長から提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、追加提案いたします議案につきましてご説明申し上げます。

初めに、議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案について申し上げます。本案は、三戸町国民健康保険三戸中央病院の常勤医師の確保に資するため、当該条例の一部を改正しようとするものであります。

改正の内容についてであります。これまで奨学金貸与の対象者を学校教育法の医学を履修する学生とし、住所要件を定めず、全国からの募集をしていたものに、町出身者において国外で医学を履修する学生を加え、対象を拡大しようとするものであり

ます。町といたしましても、町民憲章の一つに掲げている教育の町をさらに推し進め、教育の可能性、教育の成果、人材育成の面などからも町民を応援し、医師の確保に資するため、所要の改正を行うものであります。

次に、議案第60号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第4号）について申し上げます。本案は、令和6年度三戸町一般会計既決予算額67億6,392万1,000円に歳入歳出それぞれ828万2,000円を追加し、予算総額を67億7,220万3,000円にしようとするものであります。

補正の内容といたしましては、新たな医師奨学金の貸与希望者があり、基金の不足が見込まれることから、医師奨学基金繰出金828万2,000円を追加しようとするものであります。

以上で追加提案理由の説明を終わります。

追加日程第6 議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案

追加日程第7 議案第60号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第4号）

○議長（竹原 義人君）

追加日程第6、議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案及び追加日程第7、議案第60号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第4号）を一括議題とします。補足説明願います。

病院事務長。

○病院事務長（松崎 達雄君）

議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案について補足説明申し上げます。

本案は、三戸町国民健康保険三戸中央病院の常勤医師の確保に資するため、当町の出身者であって、将来医師として三戸中央病院に勤務する意思のある者が、外国の大学の医学部で履修する場合に、国内の大学の医学部で履修する場合と同様に医師奨学金を貸与することができるよう、当該条例の一部を改正しようとするものでございます。

改正の内容でございますが、条例案第12条第1項では、町出身者が外国の医学部を卒業後、医師法の規定により、医師国家試験の受験資格を取得することができる場合は、貸与の対象者とするように規定を新たに追加するものでございます。

また、同条第2項では、外国の医学部を卒業後、医師免許取得までの間は、奨学金の償還を猶予することができるよう規定を新たに追加するものでございます。

なお、本改正案の現行及び改正後の条文の新旧対照表は、条例改正資料の1ページに登載しております。

本条例案は、医師を確保するための手段の一つとして設定したく改正を行うものとなりますので、何とぞご決定くださるようお願い申し上げます。

以上で補足説明を終わります。よろしくお願いたします。

○総務課長（武士沢 忠正君）

議案第60号 令和6年度三戸町一般会計補正予算（第4号）について補足説明申し上げます。

本案は、令和6年度三戸町一般会計既決予算額67億6,392万1,000円に歳入歳出それ

ぞれ828万2,000円を追加し、予算総額を67億7,220万3,000円にしようとするものであります。

初めに、歳入についてご説明をいたします。3ページをお願いいたします。10款1項1目地方交付税では、普通交付税828万2,000円を増額しております。

次に、歳出についてご説明をいたします。4ページをお願いいたします。2款1項2目財産管理費では、医師奨学基金繰出金828万2,000円を追加しております。医師奨学基金につきましては、積立済み額が1,000万円、貸付済み額が360万円、現在の残高が640万円となっております。奨学金の貸与希望者に上限額で貸与した場合、月額20万円、入学月加算28万2,000円、6年間で総額1,468万2,000円となる見込みであることから、不足する828万2,000円を追加し、基金に繰り出すものであります。

以上で補足説明を終わります。よろしくをお願いいたします。

○議長（竹原 義人君）

質疑に入ります。

五十嵐議員。

○1番（五十嵐 淳君）

大枠で今回の条例の追加提案に至った理由をお聞きしたいです。町長でも事務長でも構わないのですが、その中で特にお聞きしたいのは、前回この条例案が上がった際には、特に附帯決議ですとか、修正動議とか、保留付承認とかにつながるような流れができずに、反対多数で否決されています。その中で、本日再度追加で上げたところの理由と、あとは実際に、もちろん通したいというお考えからだとは思うのですが、今の条例案のまま押し通したいのか、それとも対話の中で柔軟に考えられているのかということも含めて、どちらでも結構ですので、町長もしくは事務長からお聞かせください。

○町長（松尾 和彦君）

それでは、お答えを申し上げます。

まず、詳細な部分につきましては、これまで全員協議会の中でも何度もお話をしております。そういう中で、町としては、現在起こっている、また起こり得る事態を解決することを第一に考え、提案をしているものでございます。

また、申し置きたいところは、今の病院経営というもの、それを考えますと、医師不足はもちろん、今後も全国的な問題としてあるわけなのですが、医師不足だけではなく、コメディカルであるとか、いろんな部分で人の不足というのはもちろんございます。そういうところの中で、やはり人を育てていくというのはとにかく大事であるということ、そして三戸町の町長として、教育の町三戸という、これは町のプライドでありまして、いささかもこれを曲げることは私は許されないものだ、そのように考えております。その思いは、ぜひ議員各位にも、今後とも持ち続けてもらいたい大事な部分だというふうに思っております。

そして、一旦否決をされ、そしてまた若干の修正をしながら今回提出をさせていただいたところにつきましては、今教育の町という部分を前面に出させていただきましたが、やはり三戸町としての特色というのをしっかりとつくるのが大事でありますし、議員の皆様からのるる反対意見であったり、検討意見であったりいただきましたが、これという1つになかなか絞られてこないということを見ると、これはなかなか私どもとしても、どんなに譲歩の仕方を考えても、どれかに絞ってというこ

とをやったとしても、また別なので否決になるのではないかと、そういったことも私どもとしても考えました。大変苦渋の決断ではありますが、やはり教育の町三戸というプライドをしっかりとこれからも三戸町は持たなければいけないのだというふうに思います。

また、これは議長からお話をいただいたところでありますけれども、三戸町議会は党派、会派と、そういうものはないということで、議員個々の判断でやるという判断とするならば、それこそまずは一旦事態を解決し、その後に議員のそれぞれが想定される状況になれば、条例の改正も実際にはできる力を議会は持っているわけでありますので、ここは是非ではなくて、まず大きな気持ちを持って対処していただきたいと、そのように考えたものでございます。

○1番（五十嵐 淳君）

再度お聞きします。

私も、今回のようなケースというのをどんなものか調べたのですが、追加提案というものの自体がちょっと全国的に見ても事例が少なかったのと、基本的に追加提案が上がった際というのは、採決、可決されるというような流れができているような、そういう事例があるなど。その中で再度ちょっとお聞きしたいのが、今回はいわゆる三戸町出身者というところには、非常にこだわりを持たれていると思うのですがけれども、例えばですけれども、これがいわゆる可決の一つの条件となった場合に、そこに対してはやはり押し通したいのか、それともそこに関して柔軟なお考えを持たれるのかというところをお聞きしたいです。

○町長（松尾 和彦君）

これは、地域的なものだということだと思います。先月、8月に臨時議会をお願いして、この提案をさせていただきました。それはそのときにも申し述べましたが、面接や諸所の手続を鑑みますと、出国までに何とか準備は整えてあげたいという、そういう思いでございます。今月中で、今の9月定例会でというのは、今月もう既に外国に出国をされて、その中で実はもう始まっているわけでございます。今月であれば、当初の予定どおり9月からという流れのものにはなるとは思いますが、仮にそれがかなわなかったとなれば、これまでも全協の中でもご説明しておりましたとおり、遡ってということではできませんので、この時期にということ、非常に大変つらい部分もありますけれども、出させていただきますということでございます。どうぞご理解いただきたいと思います。

○2番（松尾 道郎君）

五十嵐議員とダブるところもあるので、そこは省きますけれども、やっぱり今回提案、議会に条例出してきたということは、8月の臨時議会で否決になったときに、町民の方から、あなたたちはちゃんと議論しているのかよと、そういう意見をいっぱいいただきました。それで、その後いろいろな会合のたびにいろいろ話をしているのですけれども、別に貸与に反対しているわけではないのです。外国の医学部もあるよなという議論をスタートさせてもらったということは、逆に今の応募者に感謝しなければいけない部分もあると思うのです。ただ、少なくとも1,000万円近い町のお金を動かす条例ですので、みんなが納得できる条例にしないと、それが1か月、2か月、3か月かかろうと、それが町民に向けての説明になると思うのです。仮にそうなると、今の応募者が若干貸与の期間が短くなるのですけれども、いわゆる6年の医学部の期

間を考えると72か月です。今ここで3か月かかって、3か月分の貸与が遅れたとしても、72か月の68か月か69か月は貸与してもらえます。ですから、何でもここまで急いで条例を出してきたというのが、私らに分からない理由があるのであれば、町長からお伺いしたい。

○町長（松尾 和彦君）

これも何度もお話をしているところだと思うのですが、私どもとすると、医師を呼ぶためには良医を育まなければならないという、そういうことで考えています。良医を育むということは、私たちももろ手で、喜んで医師を迎え入れる体制をつくらなければならないということなのです。1か月、2か月少なくなったから、それは関係ないだろうと、そういう考え方であれば、それは貸与が終わったら、返済をしていなくなります。そういう医師の育て方でいいのか。それとも、最後までちゃんと地元で頑張ってくれる、そして地元出身だからこそ、その願いといいますか、そこら辺も分かってもらえる、そこが大事なのだと私は思っております。それがご理解いただけないのであれば、それはそれで私とすれば非常に残念な思いであります。

○2番（松尾 道郎君）

町長の意見はよく分かりました。ただ、1か月や1回少ないからいいという話ではないのです。結局条例がないところに申し込んだわけでしょう、応募者は。それを1か月で例えばやってあげるとかというのは、やってあげたいのはやまやまです。ただ、町民に説明できますか。どう説明しますか。議論を尽くしたと思っていच्छやいますか。私は、議論が尽くされていないと思っています。ですから、今の町長の話を町民の方が納得できると思われませんか。私を含めて、今の理由は到底理解できません。ただ、答弁いいです、見解の相違ですから。ということで、私の質問はそれだけです。

○8番（藤原 文雄君）

これも何回も説明を受けたような気がしますが、先ほども町長から説明がありましたので、もう一回、どうも納得がいかないので、お聞きします。

なぜ今回のこの条例に対して遡及できないのかという点について、もう一度分かるように説明をしていただきたいと思えます。

○病院事務長（松崎 達雄君）

ただいまのなぜ遡及ができないかという点でございますけれども、遡及するとなった場合にいろんなケースが考えられます。今回のように入学前、あるいは在学中、あるいは卒業後と、そういった中において、その方々に対してどこまで遡及して支給するのか、あるいは遡及した場合にどういった形で償還していただくか、またどういった形で猶予するのか、そういったことの整理が非常に困難でございます。こういった形で、遡及に関しては非常に問題が大きいということがございますので、遡及については現在のところ考えていないものでございます。

以上でございます。

○8番（藤原 文雄君）

非常に難しいという説明だったのですが、できないわけではないということで捉えてよろしいですか。どうも整理して考えてみると、難しいことは分かりますけれども、そもそもこういったケースを考えて、町として難しい提案を出す上で、であれば私は

遡及というのはすごく考えやすい提案ではないのかなと。これができるのであれば、9月の貸与にこだわらなくても、今回のケースであれば貸与は可能なのではないかなということでも今質問をさせてもらったのですが、前の説明によると三戸町奨学金の貸与条例、佐藤義典の奨学金貸与条例と、その内容と同じく考えているという説明であったので、そもそも別の条例であるのであればできるのではないかなと思うのですが、町長にもう一度、どう考えているかお願いします。

○町長（松尾 和彦君）

遡及の話でございます。まず佐藤義典奨学金や、そういった町で既にある条例を参考にしてというのは、三戸町の出身ということを決める、6年、12年の決め方のところの話で町の条例を参考にしてということでお話を申し上げました。

また、遡及の部分については、議員の皆さんからの提案ではそういうこともあるのかなということで、自分も借りていた日本学生支援機構ですけれども、そちらのほうのやつも調べました。だけれども、そこの中でも遡及ということは行っておりません。三戸中央病院は、現在の考え方でいきますと、貸し出した金額で医師としていてもらう期間を免除するのを決めるのではなくて、期間で決めます。ですので、たった1年か、それぐらいの中で遡及をして、何年か分とか、それは分かりませんが、そういったものを前もってやったとしても、それは貸与した期間というふうなことに、要はその金額とは合致しませんので、そこはやはり期間ということで既に定めておりますので、遡及はしないということでございます。

○7番（栗谷川 柳子君）

国内の大学だけでなく、海外の大学も対象にする、貸与の対象者の拡大に効果があるというのは理解しております。実際に今回海外で医療を学んで、三戸町に医師として戻ってきて従事してくれる方が現れたということであれば、非常に喜ばしいことで期待も高まりますが、8月の臨時議会の際から、私なりにちょっと不明な、解決、納得し切れない部分がありますので、納得したく質問いたします。

今回外国の大学で医学を履修する場合の特例に限って三戸町出身者という条件を入れるという部分について、町長、教育の町三戸のプライドということで答弁再三いただいておりますが、その本来の奨学金貸与条例の目的というのがあると思うのですが、そこよりもやはりプライドのほうを大事にされるということなのか、それともその本来の目的、地域医療に従事する医師を育成するという本来の目的を優先させたいのか、どちらなのだろうなというのがどうしても疑問になります。そして、どうしても町の教育施策の充実に寄与することであるとおっしゃいますけれども、そのところが私の中でつながらないので、少し分かるように説明していただきたいなと思います。

○町長（松尾 和彦君）

教育の町三戸というのは、議員のお考えの中にはどのように映っているのか私は分かりませんが、ただかつて交換留学生として進まれた栗谷川議員には、本来的な意味合いは、これは本当はよく分かっていたけるものというふうに私は考えております。三戸町の教育の町というのは、皆さん小学生の時代に、小学校ぐらいか、ちょっと長くなりますけれども、戦中、戦前でしょうか、学校の先生がいて、子供たちに勉強の道具を買ってあげたい。だけれども、町には予算がない。親も貧しくて、鉛筆もノートも買ってあげることができない。そのときに、教師の方、地域の方はどうだったか、

豚を飼って、あるいは鶏を飼って、それを育てて売ることによって学費を稼いだり、そして子供たちの教育にお金を使ってきたのです。

三戸町は、佐藤義典奨学金から、様々たくさん奨学金がございます。奨学金のほかにも、町の有志の方々から浄財をご寄附いただいて、それを教育資金としてやってきました。そして、それは三戸小中だけではなくて、三戸高校にも白陵会という奨学金がございます。1つの町の中にこれだけ奨学金、また教育に対する熱い思いの人たちがたくさんいる町というのは、全国にどれぐらいいるのでしょうか、あるのでしょうか。ほかと比べたことがないので、私は分かりませんが、自分たちの町はそれだけ教育に熱いそういう思いを持っている、そういう町なのだと、そのプライド絶対に私たちはなくすわけにはいきません。

人口減少という中であって、実際に今の子供たちは、さらに人が少なくなっていく未来を歩かなければならないのです。そういうときに、町が自分たちの町の子供たちはしっかり応援しますよと、その姿勢を見せること自体に誰が反対をするのですか。それが三戸町の教育、教育の町三戸、そういうことだと私は理解をしています。

○議長（竹原 義人君）

暫時休憩します。

（午後 3時36分）

休 憩

（午後 3時39分）

○議長（竹原 義人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

町長。

○町長（松尾 和彦君）

なぜ三戸町町民に限定したのかという、そういうお話でございますが、これも全協の中でも何度も説明をしてきております。医師奨学金、全国の自治体や県、様々なところで当然行っております。しかし、そういう中でもそれを利用される、特に青森県の場合は、それを活用していただいているというのが実はあまり例としていないというふうに思っております。そういう中で、今三戸町からそういう方が生まれたということは、大変喜ばしいことでもありますので、それに対処する形で今回条例案を、改正案を出させていただいたつもりです。先ほども五十嵐議員の質問にも答える形でお話を申し上げましたが、まずは今の事態を一旦解決すること、そしてまた議員の皆さんがおっしゃるように、他の自治体からそういうよう要望なり申請なり、来たいというのがあったときには、それはそれで対応していけば私はいいのではないかというふうに思っております。

しかし、まず三戸町というものを、教育の町三戸というものをしっかりと出すというところが一番大事な要点になりますので、これから三戸町はいろいろ人口減少の中で、ほかの地域からの人も呼び込んでいくことにもなろうと思います。その際には、やはり三戸町だからというところが何といても私はポイントになってくると思いますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。

○7番（栗谷川 柳子君）

海外の大学に行かれる場合は三戸町出身者に限る、国内の大学に進学する場合は三戸町外の方でも大丈夫なのですよ。なので、海外の大学の場合のみ、なぜ三戸町出身者に限るのかというのを、その理由がどう町の教育施策、教育の町三戸だからということとつながるのかというのが分からないので、先ほど来からというか、全協の際から質問しているのですが、なかなか理解できる答弁を全協のときからいただけないので、それもあつての質問でした。もう一度お願いします。

○町長（松尾 和彦君）

栗谷川議員にお答えを申し上げます。

どのように説明をすると栗谷川議員に伝わるのかというのがちょっと私では、今お話ししている中では思い浮かびませんが、それこそタムワースに行って、いろいろ向こうの幼児の方々と、また地元の幼児の方々とをつなげて、これからの海外、また英語というものに対しての人づくりをやっぱりしていかなければならないでしょう、三戸町はと、そういう話をしていたのがまるで別世界のような感じがいたしております。これもうちづくりの、ここ1年、2年だけの話ではないのです。しっかりと海外のところは、三戸町町民に対してというところが、三戸町のこれからの英語や海外、外国に対して向かっていく、あるいはしっかりとそこに戻ってきてくれる、やはり教育のレベルを高めていきたいと思いますという、そういう意味合いもこの中には入っておりますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

○7番（栗谷川 柳子君）

質問した以外の内容で答弁いただいたかと思います。ちょっと私も教育が理解できていないようなことを申されると、非常に気分が優れない感じがしますが、そこではない、私の質問に対しての答弁をいただきました。結構です。

○10番（千葉 有子君）

先ほどの皆さんのとちょっとかぶるところもあるかもしれませんが、この議案は一度否決になった議案です。またこのたび再度議案を上げた理由は、町長から先ほどお聞きいたしました。その理由はお聞きしたのですが、まだ臨時議会と定例議会の違いはあるのですが、臨時議会から本日で36日です。日にちの時間の問題ではないかもしれませんが、先ほど町長の答弁の中で、海外へ行く前に決定してあげたかったというご発言があつて、であれば書類審査、面接は後からということになり、ちょっと町民の理解を得るに、と私は思いました。町長のお話の中にも、当町は奨学金制度が豊富であると、私もそう思います。でも、ほかの奨学生、医師の確保のための医師奨学生と三戸町奨学金制度はもちろん違うのですが、ほかの奨学生もちゃんと段階を踏んでいます。

何を申し上げたいかということ、町の事業と予算という大事な案件ですので、海外に行く前に決定してあげたかったとかというお気持ちは十分分かるのですが、この件についてとても大事な案件だと思いますので、課長会議を開いたり、病院長と議論したり、審議の時間を一定時間取ったのでしょうか。最終判断は町長ではあるかと思いますが、このことについてそれこそ熟議したのでしょうか。町長の答弁をお願いいたします。

○町長（松尾 和彦君）

お答えを申し上げます。

今回の事案が発生をした際から、ずっといろいろ事務長、また総務課長、副町長、関係課とはよく話をしてこの提案に至っているものでございます。

○10番（千葉 有子君）

もしお答えできるのであれば、関係と言うのですけれども、その関係機関の方がどういう方なのか、何回ぐらいしたのか、もしお分かりになればお願いいたします。

○町長（松尾 和彦君）

大変申し訳ございませんが、何回という数え方はしておりませんが、先ほど臨時議会から36日というお話をされましたが、私どもはそれより大体1か月ぐらいも早くこれは考えておりましたので、それ相応の時間は十分割いているというふうに思っております。

○10番（千葉 有子君）

分かりました。私たちは36日目だったので、ちょっとお話しさせていただきました。よろしいです。

○6番（山田 将之君）

今回三戸町医師奨学金貸与条例の一部改正ということで、あくまでもこれは医師確保が目的である、条例にも書いてありますので、目的第1条に。そこで、教育、教育というようなことを言われているのですけれども、ちょっとそこが分からないというか、あくまでも医師確保が目的であるとは思っております。その上で判断したと私は思っております。教育、教育、教育が大事なのだ、分かります。であれば、目的に入れたらどうでしょうか。

○町長（松尾 和彦君）

ただいまの山田議員からの医師確保というもののほかに、教育という内容を入れたらいかかということだと思いますが、条例上の中での改正部分については、今私どもが提案をしておりますけれども、提案理由の中で今教育の町をさらに推し進めるといってお話はさせていただいております。そしてまた、医師確保の医師奨学金というのは、これはもちろん大学で学んでやってくる前提でありますので、当然教育のことはその中に内包されているものであります。なので、それをあえて分けるというところは、もちろん今教育の町三戸というのを強く言っておりますので、意味合いは伝わりますが、ただそこまで今回必要なかどうかというのは検討させていただきたいと思っております。

○6番（山田 将之君）

この条例改正、すごく話がいろんな方向に広がって、ちょっと私も今整理がつかない状態であります。その上で、今提案するべきではないということを町には伝えておりました。結果、今回追加提案という形で提案されていますけれども、やはり町民に十分説明できる段階ではない、私はそう思っております。先ほど松尾議員からもありましたけれども、何が目的かというところを一番にやっぱり考えなければならないのかなど。医師確保のためにやらなければいけない、であれば私は、それは全然問題な

いのかなと思うのですけれども、それに教育だとか、また別な理由がついてきたりとか、そういったのがつくと話の論点というか、そういったのがちょっと不明になってくるなと私は思っております。医師確保という部分ではないということでしょうか。一番の目的は教育ということでしょうか。どちらなのでしょう。

○町長（松尾 和彦君）

議案のタイトル自体が医師奨学金でございます。奨学金というのは、学ぶ場の中で行っているものでありますので、どちらかという話ではございません。これは、もう一体でございます。

○6番（山田 将之君）

三戸町医師奨学金貸与条例第1条、「三戸町における地域医療の充実に必要な医師の養成及び確保を図ることを目的とする」とあります。ちょっとよく分かりません。もう一度お願いします。

○町長（松尾 和彦君）

奨学金です。貸付金ではありません。奨学金なのです。それ以上何か説明が必要ですか。むしろ奨学金がどういうふうに使われるのかというのが……

（何事か言う者あり）

○町長（松尾 和彦君）

奨学金というのは、医師の免許を取るために大学に行って、そこを支援していくのが奨学金です。

（「目的は分かっています」と言う者あり）

○町長（松尾 和彦君）

目的の中に、奨学金というのがそもそもどういう意味合いかというのは、もう既にこれはその中に入っている、そういうふうにご理解をいただきたいと思います。

○議長（竹原 義人君）

ほかに質疑はありませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

質疑を終結します。
討論に入ります。

○10番（千葉 有子君）

議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案について、反対の立場から討論を行います。

このたびの条例案は、7月上旬の1件の相談から始まり、極めて短期間のうちに、外国の大学において三戸町出身者に限定すると8月5日の臨時議会で提案されました

が、拙速かつ公平性及び平等性に欠けるとの理由で、一度否決されております。今回の提案においても、町出身者に限定する点については文言は足されましたが、再提案されています。限定することについての町長のお考えは、医師確保の目的からすると、町民からの理解が得られるものではないと考えます。

私は、医師確保の観点で、医師奨学金貸与制度そのものに反対するものではありません。短期間で提案に至った町からの説明では、町民の方に説明するに足りないものと考えます。大切な町のルール、条例です。公正公平の立場から、より適切な修正案のための時間も必要かと考えます。

よって、現時点で賛成できる提案ではないものと考えますことから、議員各位には町民の皆様を代表し、適切にご判断くださいますようお願い申し上げ、私の反対討論といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（竹原 義人君）

次に、原案に賛成者の発言を許します。

○13番（佐々木 和志君）

追加提案第59号について、賛成の立場から討論を行います。

本案件は、経済的な理由により教育を受けられないといったことがないよう支援するとともに、三戸中央病院の医師確保につながることで、将来的に町や町民の利益に大きく寄与するものであります。

国会議員であれ、県議会議員であれ、市町村議員であり、政治に携わる者は全て政治家であり、その大きな職責の一つとして弱者救済があります。町民からの支援を求める声があり、また今後同様の事例が起こることが想定される中において、それに応え、将来の町につなげることは、政治家として、また三戸町議会議員として当然果たすべき職責であります。

議員各位におかれましては、いま一度問題の本質を十分に見極めた上で、何とぞ本案件に賛同くださるようお願い申し上げ、私の賛成討論といたします。

○議長（竹原 義人君）

ほかに討論はありませんか。

○12番（澤田 道憲君）

賛成の立場から討論を行います。

医師奨学金貸与条例の改正に当たっては、将来にもわたり海外で就学し、その就学で学んだ能力を地元で医師として貢献できれば、大いに賛成するものであります。

三戸中央病院は、三戸地方の中核として救急医療受入れ病院としても機能していることから、医療の充実を図る意味からも、議員各位におかれましては、個人的な感情を挟むことのないよう、広く客観的な立場で前途ある判断を期待し、賛成の討論といたします。

○議長（竹原 義人君）

ほかに討論はありませんか。

○8番（藤原 文雄君）

議案第59号 三戸町医師奨学金貸与条例の一部を改正する条例案について、反対の

立場から討論を行います。

この条例案では、改正後の第12条で三戸町出身者と規定していますが、地域要件を定め対象を限定することは、本来の目的である医師確保の本質とは明らかに矛盾するものであります。さらに、1つの事案に対して条例の規定を合わせていく、極めて恣意的な内容と言わざるを得ません。特例と称してこのような条例改正がなされるのであれば、町の条例に対する町民の皆様の信頼を著しく失うことにもなりかねません。

学ぶ意欲のある貸与希望者を否定するものでは決してありません。あくまでも、改正案の内容、提案の仕方に問題があるとの視点から、いま一度熟慮を重ね、より公平公正な条例改正とし、しっかりとした審査が行われるべきであると私は考えます。よりよい条例とすべき責務を果たすためにも、議員各位には何とぞ適切なお判断をお願い申し上げます。

以上、私の反対討論といたします。

○議長（竹原 義人君）

ほかに討論はありませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（竹原 義人君）

討論を終結します。

これより議案第59号及び議案第60号を一括して採決します。

この採決は起立によって行います。

議案第59号及び議案第60号は原案のとおり決定することに賛成の方はご起立願います。

（賛成者起立）

○議長（竹原 義人君）

着席願います。

起立少数であります。

よって、議案第59号及び議案第60号は否決されました。

閉 会

○議長（竹原 義人君）

以上で本定例会に付された事件は全て終了しました。閉会に当たり、町長から挨拶をしたい旨の申出がありましたので、これを許可します。

町長。

○町長（松尾 和彦君）

第519回三戸町議会定例会の閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

去る9月3日に開会いたしましたこのたびの定例会におきましては、各議案並びに令和5年度の決算認定につきまして慎重なご審議をいただき、本日閉会の運びとなり、衷心よりお礼申し上げます。

会期中、議員の皆様から賜りましたご意見、ご要望等につきましては、十分にこれを尊重し、検討いたしまして、町政運営に万全を期してまいる所存であります。

さて先日、9月7日に開かれた畜産技術向上を目的に毎年開催されている青森県畜産共進会、肉用牛の部において、当町の日影護さんが最高賞である農林水産大臣賞を受賞いたしました。今までにない快挙であり、町内の畜産農家の励みになるとともに、3年後の北海道で開催される全国大会へ向け、さらに期待されるところであります。

いよいよ町の基幹産業である農業におきましては、収穫という重要な時期となります。夏の高温による農作物への被害も心配される場所ですので、今後の気象情報や生育状況を注視するとともに、農家の皆さんと一緒に豊潤な実りの秋を迎えることができるよう、切に願うものであります。

また、今月末には、さんのへ秋まつりが開催されます。収穫感謝、地域の結束、伝統文化の継承、繁栄祈願など、様々な思いが込められています。かみしも行列、山車組等に参加される皆様から、何らかで関わり陰で支える皆様まで、町全体で盛り上げていければと考えております。

終わりに、議員の皆様には健康に十分留意されますとともに、町政運営に対する一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、閉会の挨拶といたします。ありがとうございました。

○議長（竹原 義人君）

これで本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。第519回三戸町議会定例会を閉会します。

午後4時08分 閉会

署 名

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

三戸町議会 議 長

署名議員

署名議員